

ネトラレ
国王



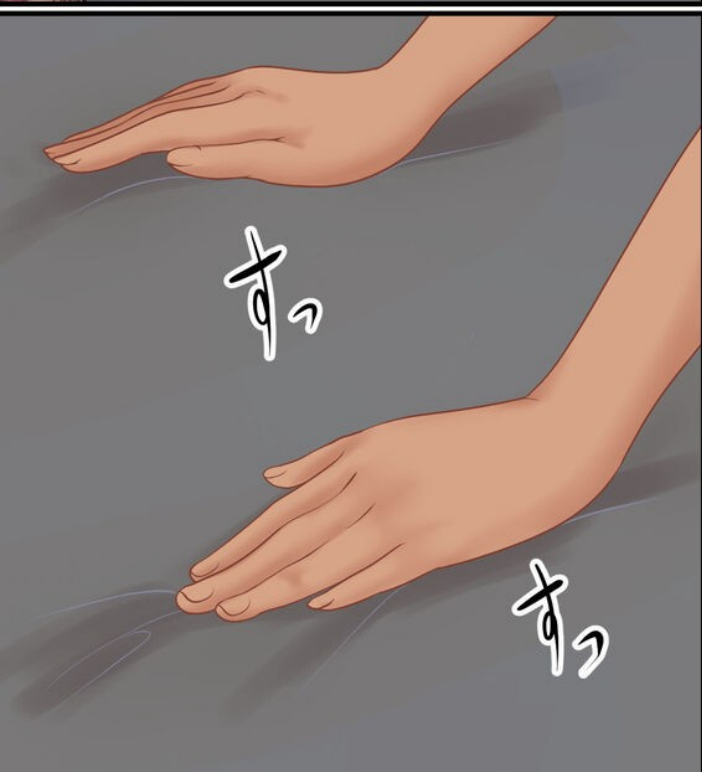
フルカラーコミック 98P

ここは人間族の治めるユグランド王国

失礼いたします。

私はリーラ。
国王カイン様と王妃シーファ様の
世話役を務める侍女のダークエルフだ。

カイン様に嫁いだ
エルフ姫シーファ様とこの国に
移住して1年になる。





ご就寝の準備、整いました。

うん、
いつもありがとうございます！



はい。
ゆっくりとお休みください
シーファ様



シーファ様は、
私の主人であり、恩人でもある。



覚醒遺伝で稀に産まれるダークエルフは、
不吉なモノとしてエルフの国では
差別扱いされる。

迫害を恐れた両親に、幼い頃に棄てられているところを、
近衛兵と城下視察をしていたシーファ様に庇護された。

ねえ、よかったら王宮にいらっしゃい。
私の友達になってくれる？

ダークエルフである私にも分け隔てなく接してくれ、
専属の侍女としてのお役目まで授けてくれた。
それ以来、お側に仕え、共に成長してきた。



うむ、
ありがとうリーラ。



それでは私はこれで…

エルフの体液を経口摂取すると
人間も寿命が延びる。
私は数百年、このお二人に
仕えることになるだろう。

君もゆっくり休んでくれ。
お休み



そして、シーファ様が盟約のもと嫁いだことで
私のもう一人の主人となったカイン様



は、はいっ……！
ありがとうございます…

おやすみなさいませ

ふふ、リーラったら。
照れちゃって可愛い

ねえ気づいてる？あの子、
アナタに恋してしまってるわよ

そ、そうなのか？

あら鈍感。

まああの子、男性とまともに
話すこと自体が
この国に来るまでなかったからね……

抱いてあげたら
リーラも喜ぶのに

そ、それはそれで複雑だな。
僕の魅力とか関係ないじゃないか

まあ、僕には君しか
見えてないから

ふふ、国王ともあろう人が
妾の1人も作らないで。

夜伽も侍女の立派な
お務めなのですよ？

でも嬉しいわ。ワタシも女ですもの。

愛してる男性は
独り占めしたいのも本音



ぐちゃ

ぐちゃ

ぬるっ

ぐちゃ

ぬるっ

ぐちゃ

ぬるっ

ああ、気持ち良いよっ！
シーファの中、最高だ！

くっ、そろそろ出そうだ！

あっ、待って…
もう少しっ

ぬるっ

ぬるっ



イクっ!!!

ビク

ビク

ビュル

あっ…





今夜も最高だった。
シーファもイッたかい？

う...うん



ふふ、イって照れてる
シーファはいつもすごく可愛いな



アタシも...
イッちやった...



カイン様は王としての政務をほとんど行わず、騎士としての鍛錬も怠ってばかりだと批判する重臣はいるようだが、急逝した先代国王の統治実績は素晴らしく、ユグランドは平和な日々が続いていた。



しかし、そんなある日、
王国に激震が走る。

前国王の妾の子だという理由だけで
不遇な扱いを受けていた
第二王子ジェイス様が裏で軍部を懐柔。
1夜にして、国王の座が入れ替わる
クーデターが起こった。

カイン様とシーファ様は
別々の部屋に軟禁されることとなった。
侍女である私のみ、
王族の世話係としてお二人の部屋に
お仕えすることを許された。



ジェイス！
貴様、血迷ったか！

このままではこの国は早晚滅亡する



何もせずに欲しい物が全て
手に入ると考えている甘ったれの
お飾りだけの王には退いてもらおうぞ兄よ！



はい

そうですか、
カインは無事なのね



この近くのお部屋で軟禁されてはいますが、
さすがにジェイス様も、兄でもある人を
無下には扱わないようです。

そう、安心しました。
それにしても兄弟による
王権争いは世の常とはいえ、
まさかこの平和な国で起こるなんて...



!?

こんな時間に誰です!?



が
ちゃ

こんばんは。シーファ

兄との婚儀でお見受けして以来だ。
相変わらず美しいな

なっ…

王妃の寝室に
無断で立ち入るなどと
不敬ですよ！

これはおかしいことを言う。
私はこの国の王になったのですよ？
この王国のものは全て私の力で手に入れたものだ

そう、あなたも含めてね

グイッ

え……！？



……。ああ、二人の世話役のメイドだったか？

ダークエルフか



おやめくさいジェイス様！
お願いします。
どうか私を代わりに……！



ダメよリーラ！
あなた、初めてでしょう！



ほう。処女か。

まあいいだろう。
兄のメイドだったのであれば、
抱いておかなければな



はい、リーラと申します。

卑しいダークエルフの身ではございますが、
メイドとして夜伽の心得は一通り
できてございますのでなんとか私で……



シーファ様！
いけません！



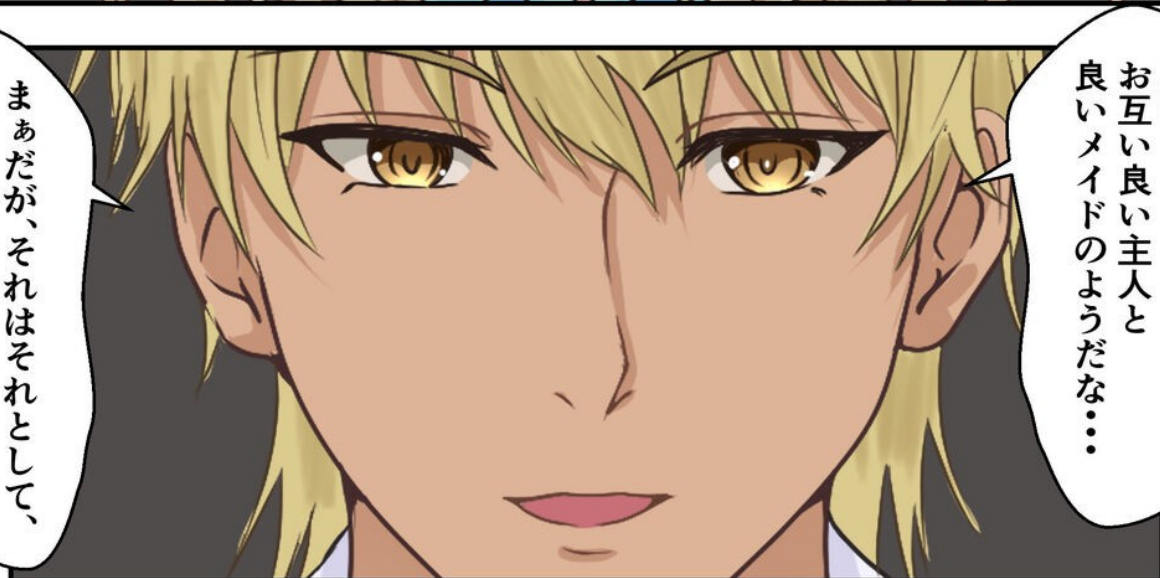
待って！

わかったわ。ジェイス様。
ワタシを抱けばいいわ



構いません。

ワタシのために
あなたが犠牲になる必要なんてないわ



ふむ……
お互い良い主人と
良いメイドのようだな……

まあだが、それはそれとして、
遠慮なく、するとうるか

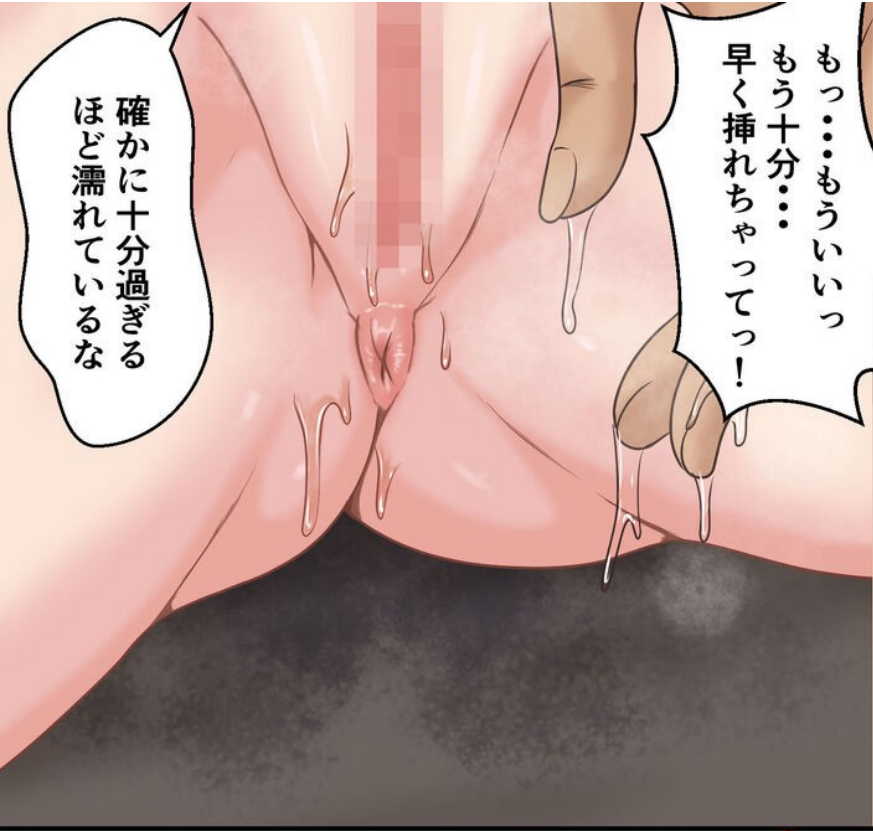




いやらしい触り方……っ
嫌っ……!!

小ぶりだが柔らかくて
弾力のある良い乳房だ







うそ、何これ!?!
カインのと全然違う!?!

すごい気持ちいいとこを擦られてる!!

セックスが...気持ち良い!?

くっ...これが
エルフの膣中...

なんて気持ちよさだ、
人間の女と比較にならん

しかも処女の
ような締まりだ

ひっ!!

ぐう...!!

まさか...
この人だったの...?

ぐちゃっ

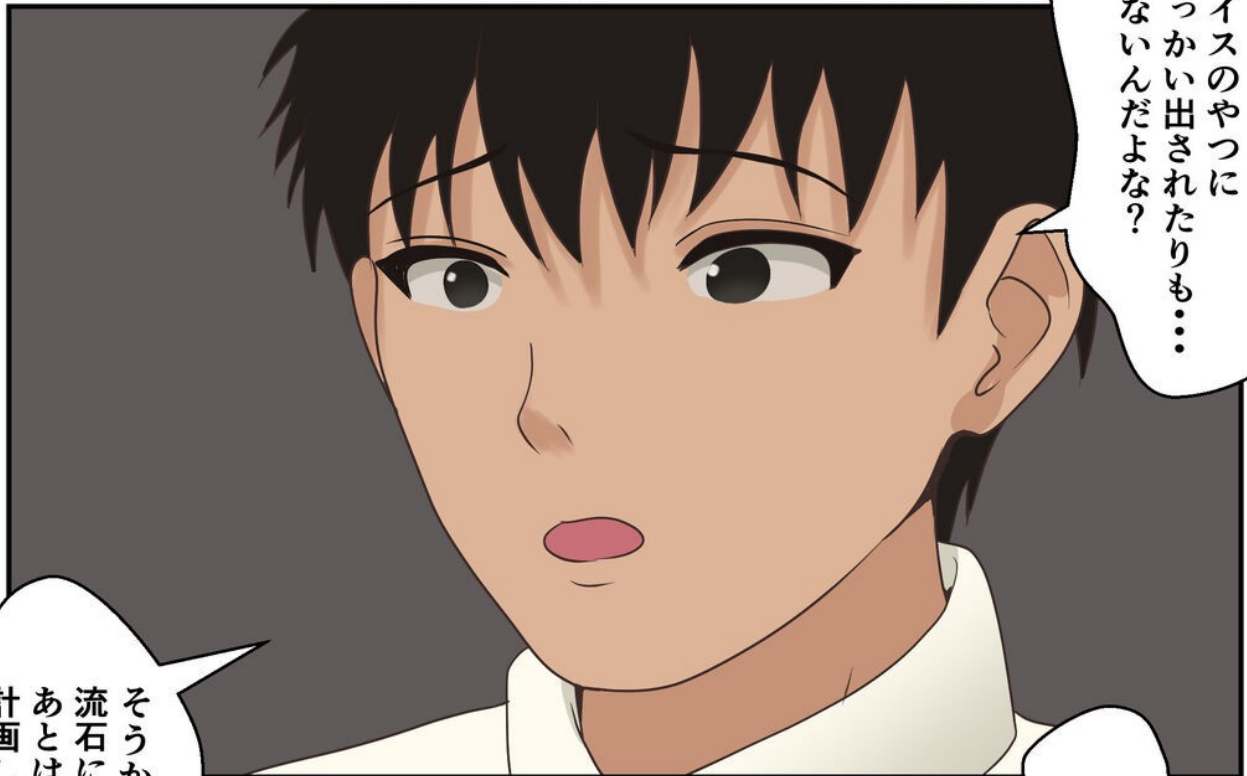
ぐちゃっ





そうか。
シーファは無事か。

。。。
ジェイスのやつに
ちよっかい出されたりも..
してないんだよね？



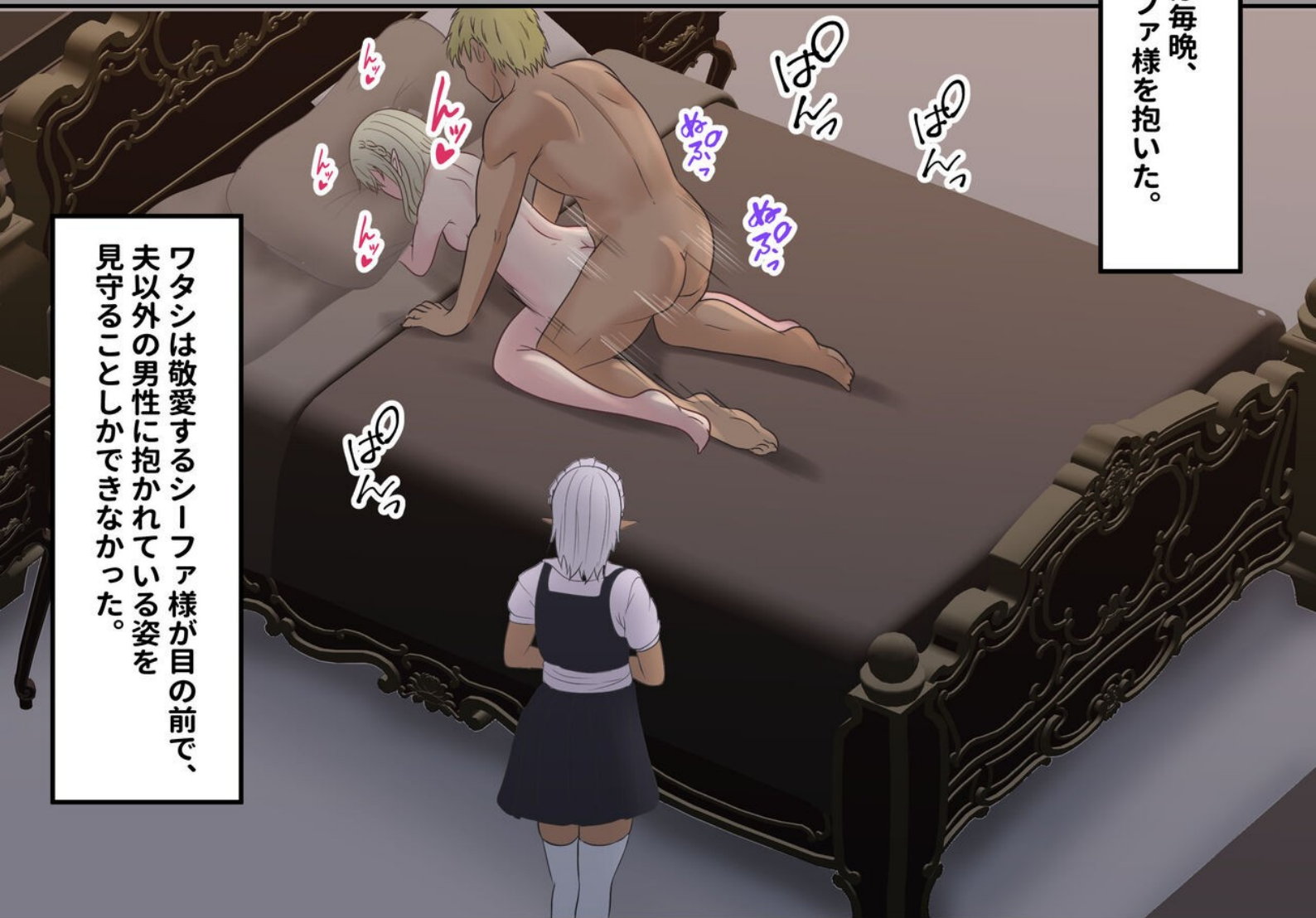
そうか良かった。。。
流石に王妃に手は出さんか。一安心だ
あとは重臣の誰かがきつと僕の王権の復権を
計画してくれるはずだ。。

。。。
はい。。

シーファ様の寝室には
私しか出入りしておりません



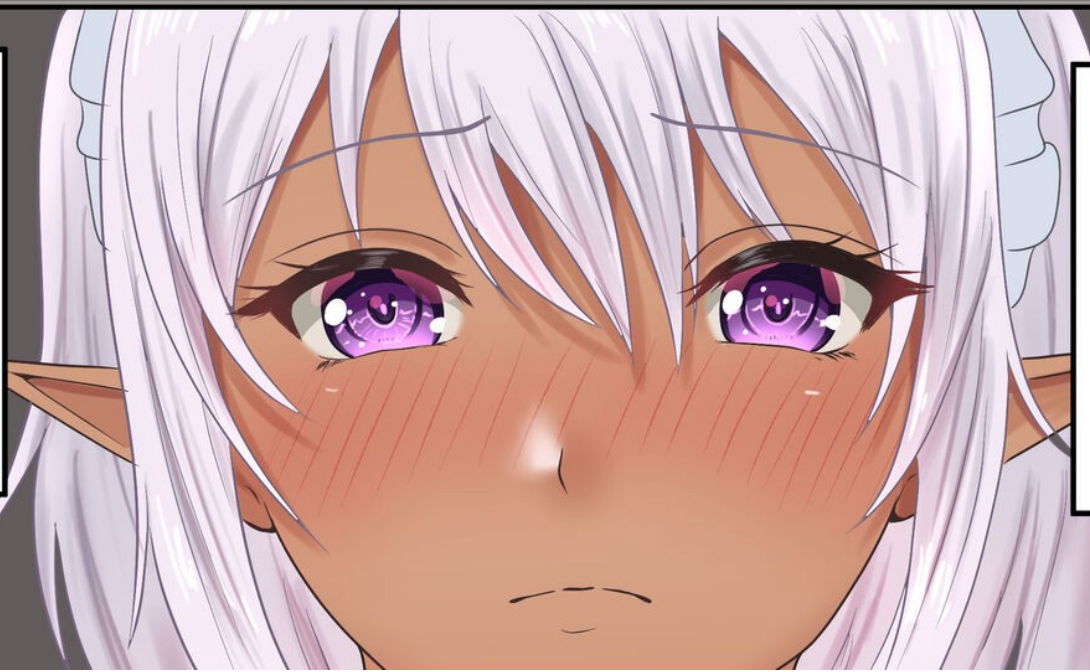
それからジェイス様は毎晩、
就寝前に数時間、シーファ様を抱いた。



ワタシは敬愛するシーファ様が目の前で、
夫以外の男性に抱かれている姿を
見守ることしかできなかった。

シーファ様を守ることが
できない罪悪感

それと同時にどうしても
思ってしまう





なんと美しい姿だろう…

ダークエルフの私などとは
まるで違う、エルフ王族の美しさ

お!!

お!!

おく!!
いやあ!!

ん
ん
ん

ん
ん



幼い頃から知っているシーファ様が、
すっかり大人の女性になっていることを
私は初めて実感した。

早く!
早く終わらせて!

はちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

そら、子宮が下りてきてる。
絶頂が近いのが分かるぞ。
我慢せずにイッてしまえ

腰を打ち付けられるほどに、
シーファ様の透き通るような白い肌は
紅潮し、弾ける汗が増えていく。

その様子と表情から、心に反して、
シーファ様の身体はジェイス様を雄として
受け入れていることが私には分かった。

誰がっ

はっ

はっ

はっ

き、気持ちよく
なんてありませんっ!!

長命種で子が少ないエルフの女性は、
身体が勝手に優れた雄を選別する。
身体が受け入れないと、その相手との
交わりで絶頂することは決してない。
そしてエルフは
絶頂しなければ排卵せず、
子を宿すこともない。





それでも、シーファ様が絶頂に達することは一度も無かった。王妃としての、カイン様の妻としてのプライドがそうさせているのだろうか…。

くそ!
もうダメだ!
出るっ

数時間、絶頂を耐える辛さ。自慰の経験から、処女の私でも理解できる。



なんとお劳しい…

私が少しでも、お役にたたなければ…

びんっ

ドクン

ドクン



はあ…

はあ…

びん

びん



それは…?

は…!

…どうしました?

は…!



もしよろしければ、私にそのお役目をいただければ…

まだ経験こそありませんが、私はメイドとして、女性主人様のお身体を慰める方法は心得ております。

今夜は、ジェイス様に気づかれないようにこれをお持ちしました。



シーファ様…

あの…差し出がましいのですが…。



慰め…
そ…そう…



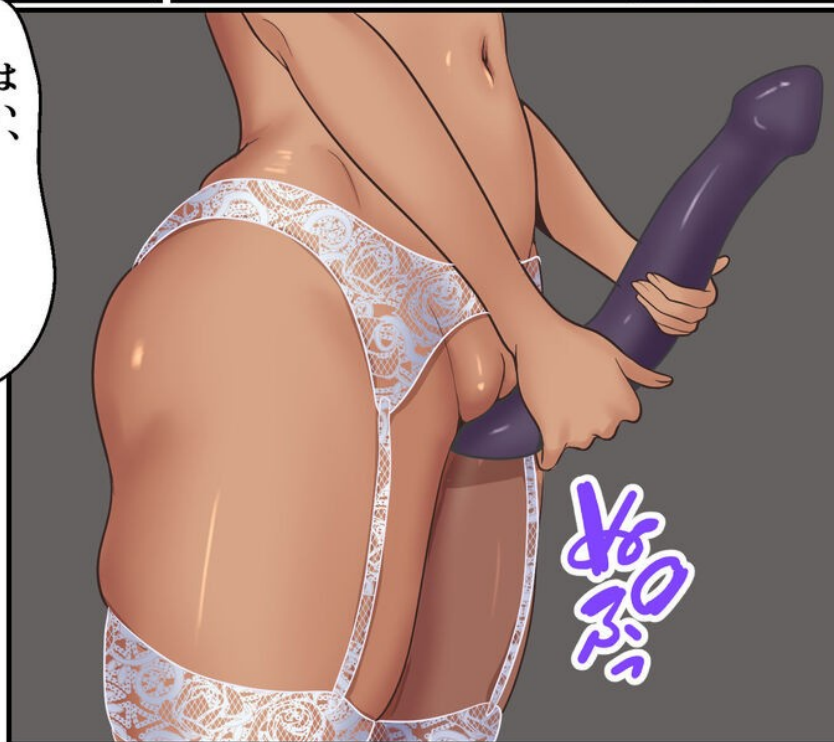
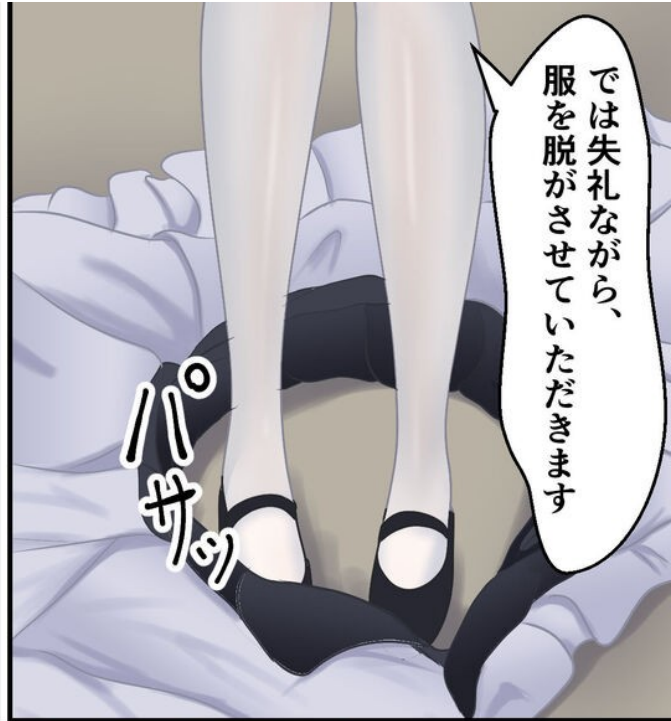
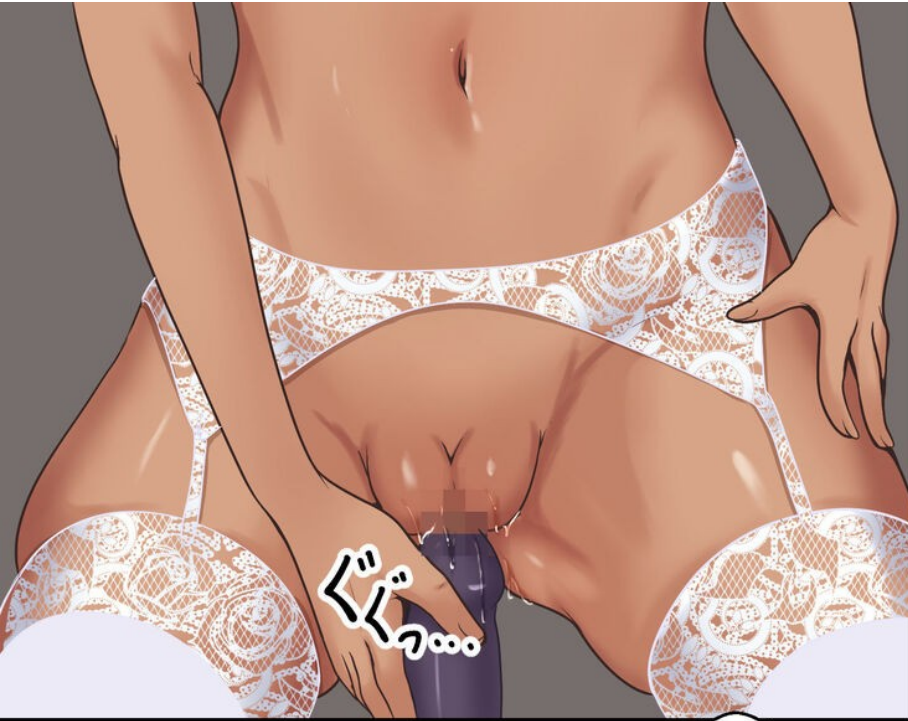
はい、喜んで！

…っ！



確かにこのままじゃ、
耐えられなくなりそう…

では…
お願いできますか？







あっ…大きいっ

これ…
ちょうどジェイス様のと
同じくらいの形…??

このまま奥まで…
挿れますっ！

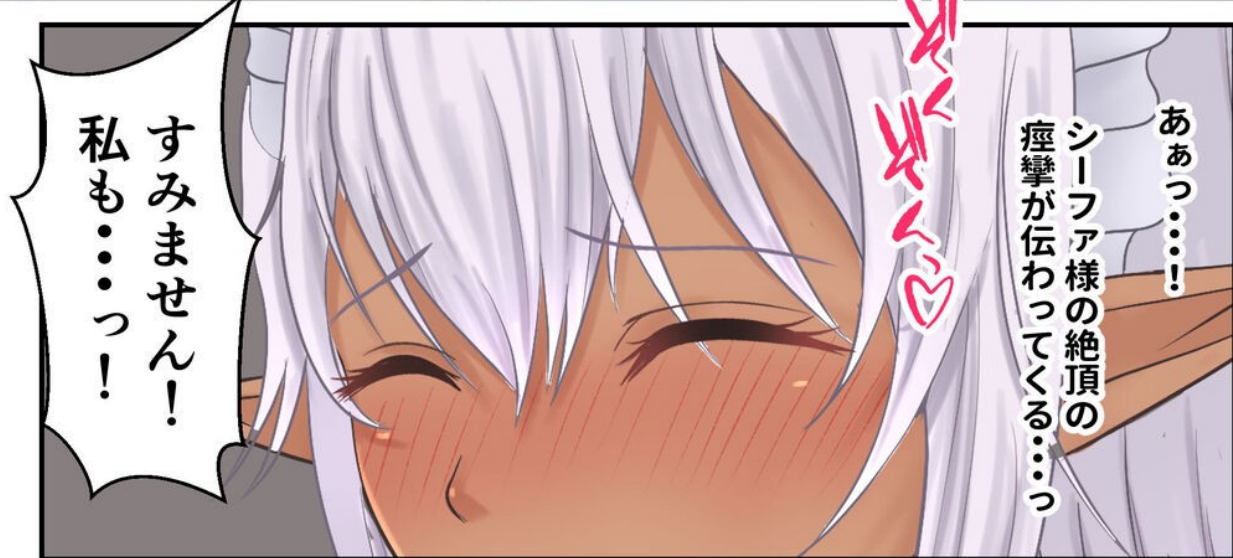
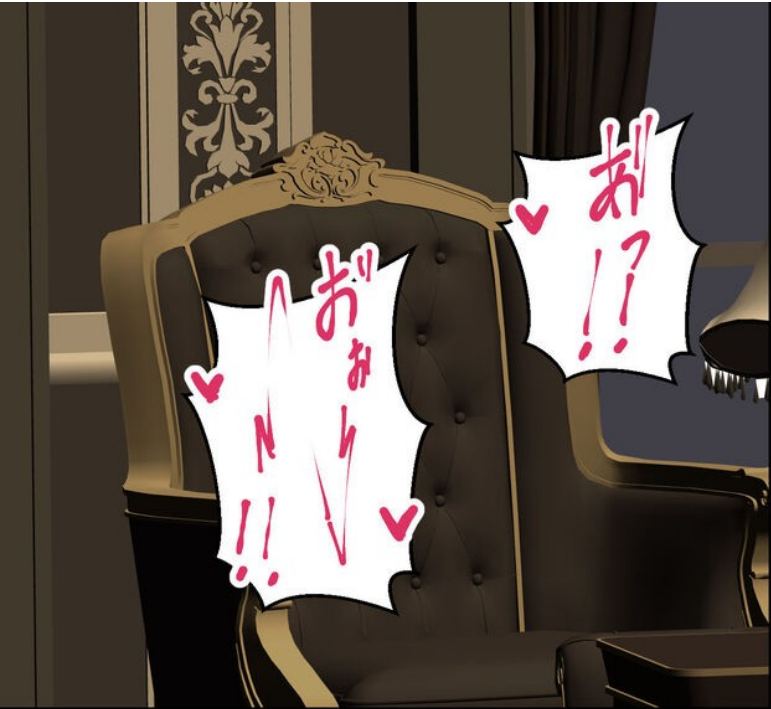
ズッ
ズッ



リーラ！
これっ、気持ち良い
ところに当たるわっ

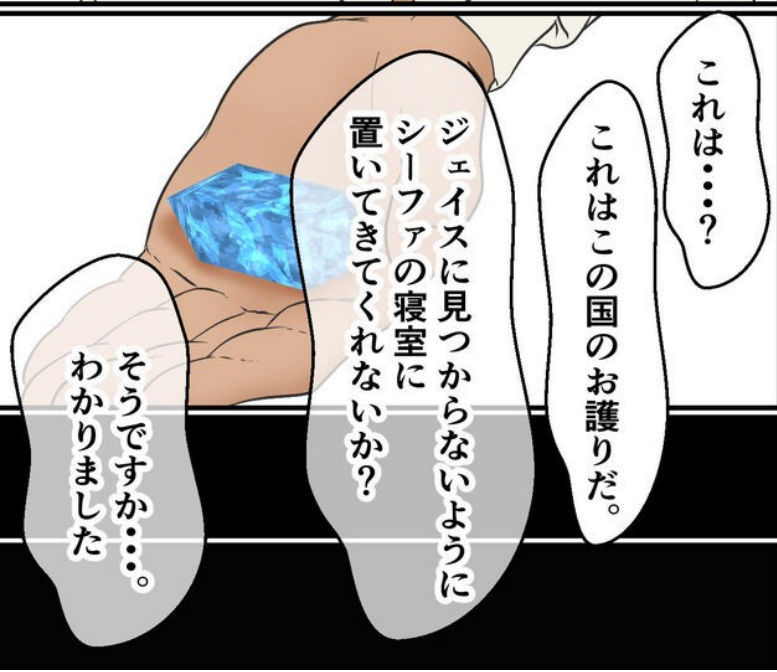
全部入りましたっ
私も、気持ちいいです！

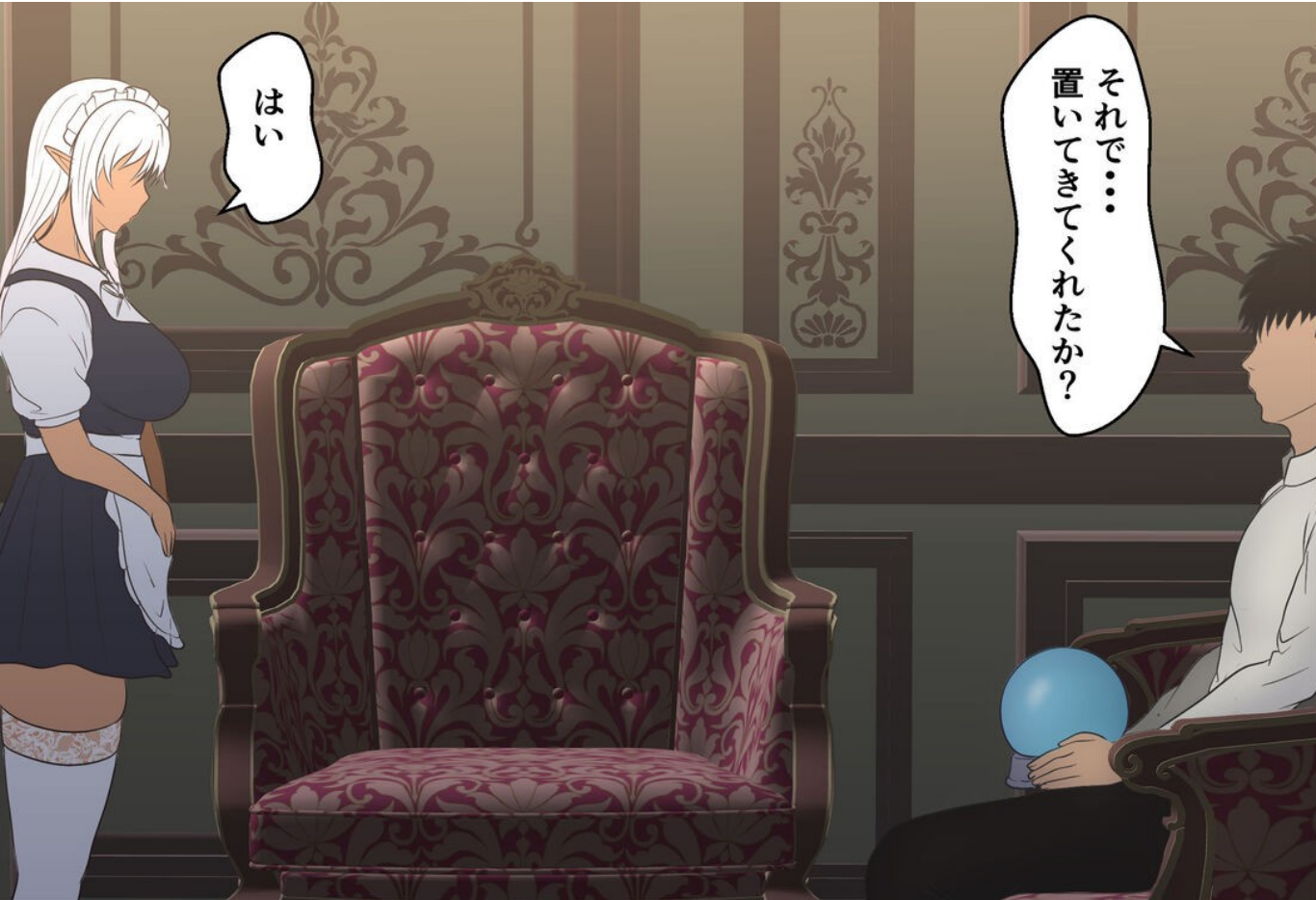












はい

それで…
置いてきてくれたか？



…え？
は、はい。
こうでしょうか…？

では、この水晶に
魔力を注いで欲しい。
僕には魔力が無いからね。



あのカイン様…？
これは…？

ポウ…

よし。うまくいったな





大きい…

間近で見ると気づかなかったけど、
こんなに大きかったなんて…



良いぞ。
上手ではないか



そうだ、奥まで。
喉を使え

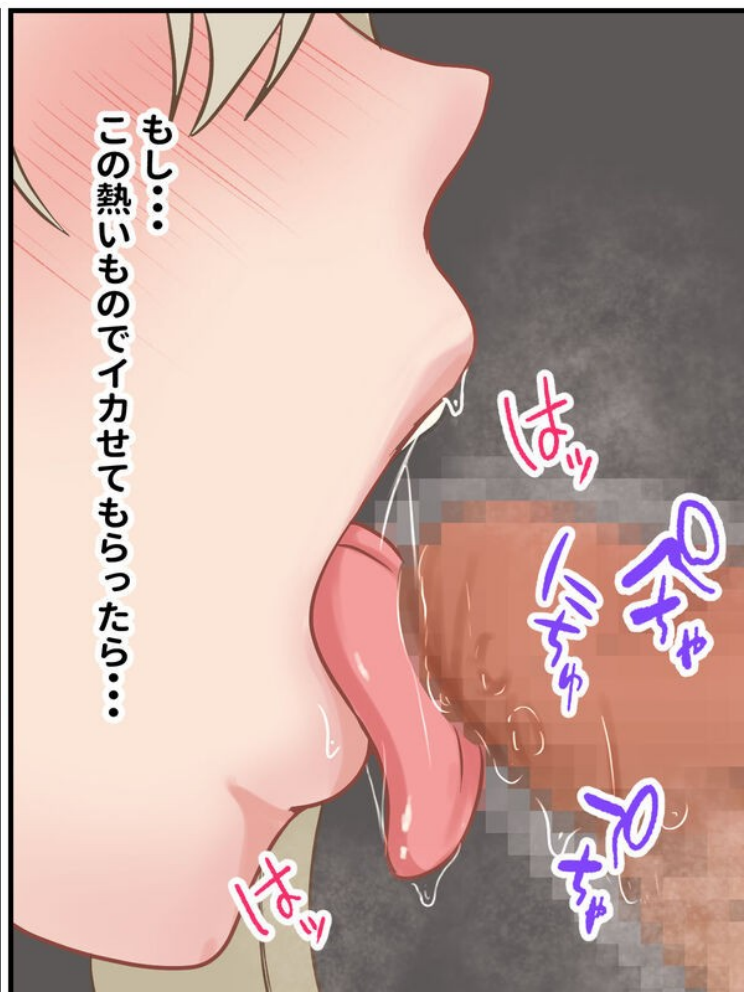
カインのと全然違う

だから膣内の気持ちいい
ところに当たるのかな…？
もしかしてずっと気持ちよく
なれなかったのは
相性の問題だったの…？

昨日、初めてリールにイカせてもらって、
イクのがあんなに気持ちいい
ものだって知らなかった



私どうなっちゃうんだろう...



もし...
この熱いものでイカせてもらったら...

ダメ…

私、リーラが見てないからって、
なんてこと考えて…

ちゅぽ

くちゅ
くちゅ

ちゅぽ

私はカインの
妻なんだから…

すりっ♡

すりっ♡

キュン

とろあ…

キュン

他の男の子供を宿すなんて
あってはならないこと

ぐほん
ぐほん
ぐほん
ぐほん
ぐほん



やっぱりか…

シーファ…



ジェイス様が
王になった晩からです…

毎晩なのか…？

はい…
シーファ様の意思に
反して無理やりに…

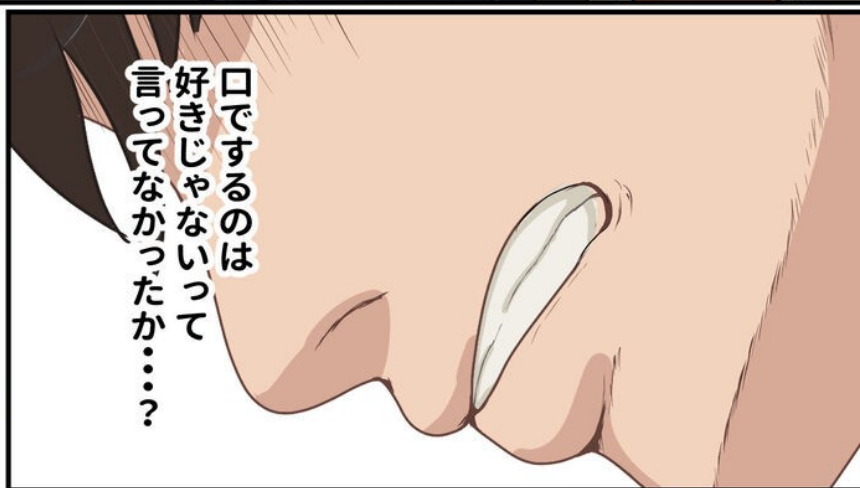


これは…
いつからなんだ？



無理やりだと……？

こんなに股を濡らして、
相手に擦りつけながらで、か……？





よ、よろしいのですか……？

ああ、早くしろ



え……？
はっ……

ビクッ

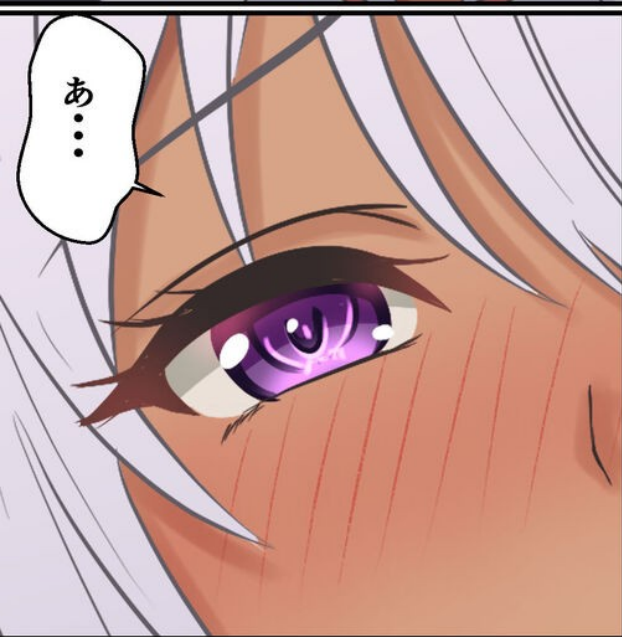


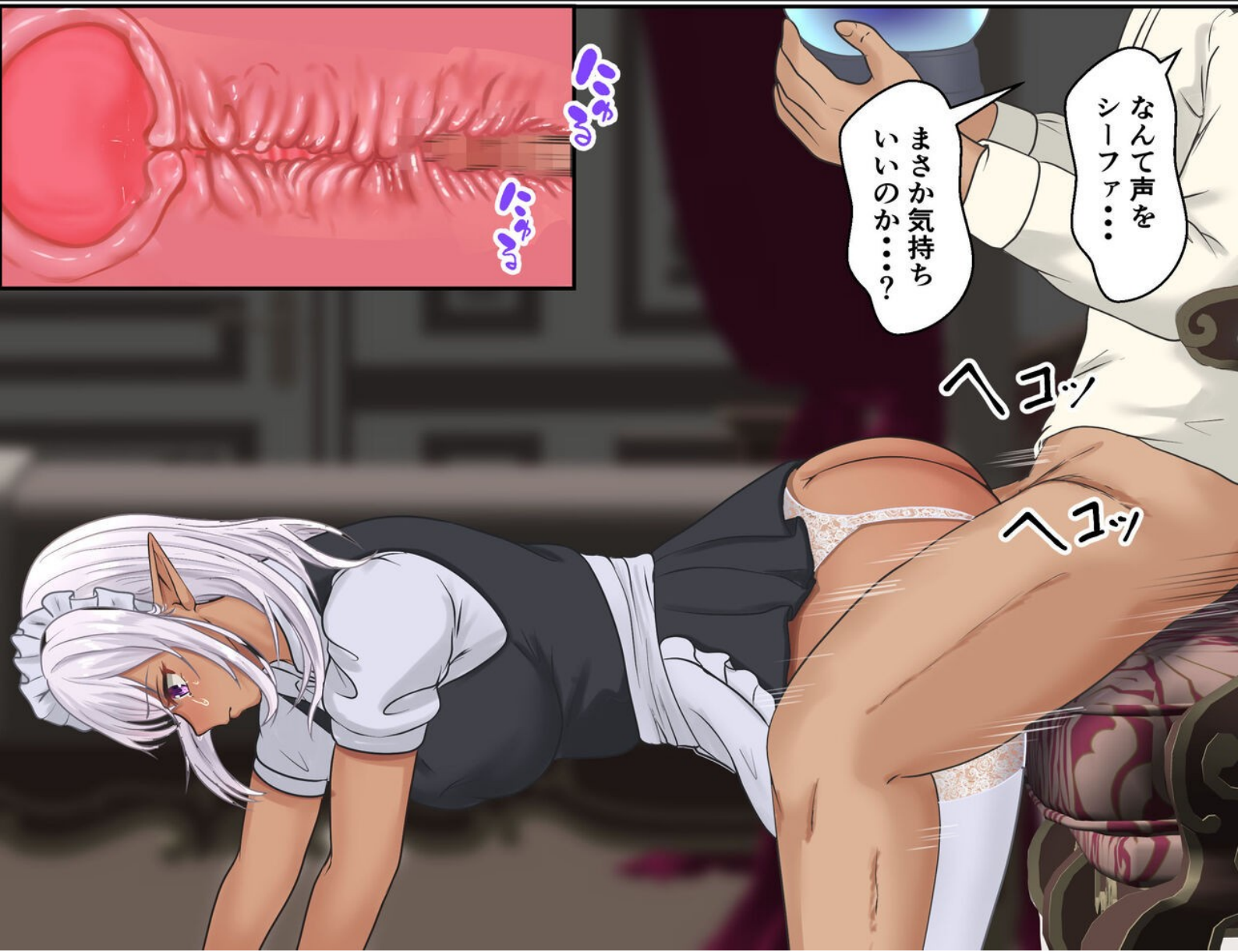
で、では……
精一杯務めさせていただきます……

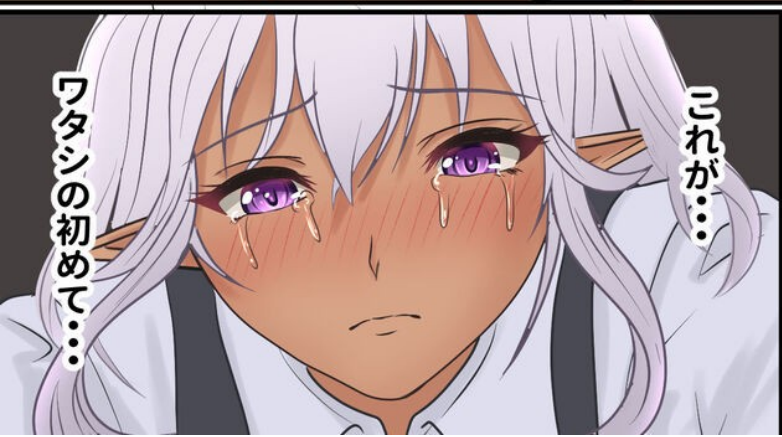
じきじき

ああ……シーファ……
なんで……そんなこと……









ダークエルフの私が、
人並みの幸せを得たいなどと
恥ずかしい願いだとは理解している。

それでも…
やはり期待していなかったと
言えば嘘になる。

では…
私はこれで…

ご寵愛ありがとうございます
ございました…

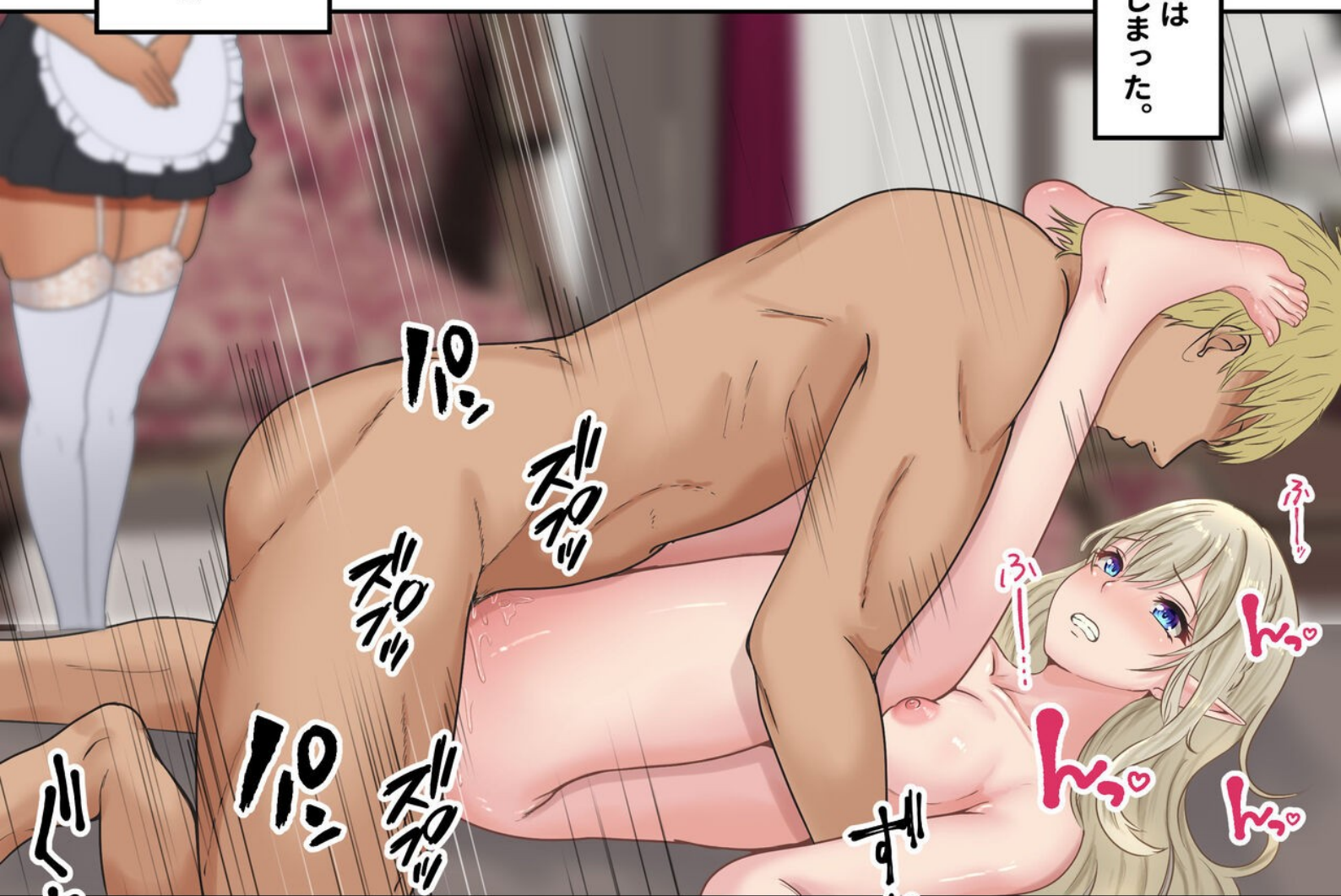
想っている男性の身体と
繋がれるのはどれほど
心地良いことなのだろうかと。

妻が目の前で他の男性に
抱かれているのだ、無理もない

でもせめて…
お声の一つだけでもかけて欲しかった。

それから数日、カイン様は
心労で部屋に籠もってしまった。

またシーファ様が
抱かれる姿を見守り、
その後に私がお身体を
慰める夜が続いた。



私には男女の交わりの
快感は分からなかったが…

それでも、お二人の交わりを見てみると
下腹部は自然と熱くなった。









早くしなれ

う...
あの...

もじ...

もじ...

か...
あ...
あ...
あ...

これで...
いいでしょうか...



む...
わ...
あ...



これは……
その……

ひ……はわ……



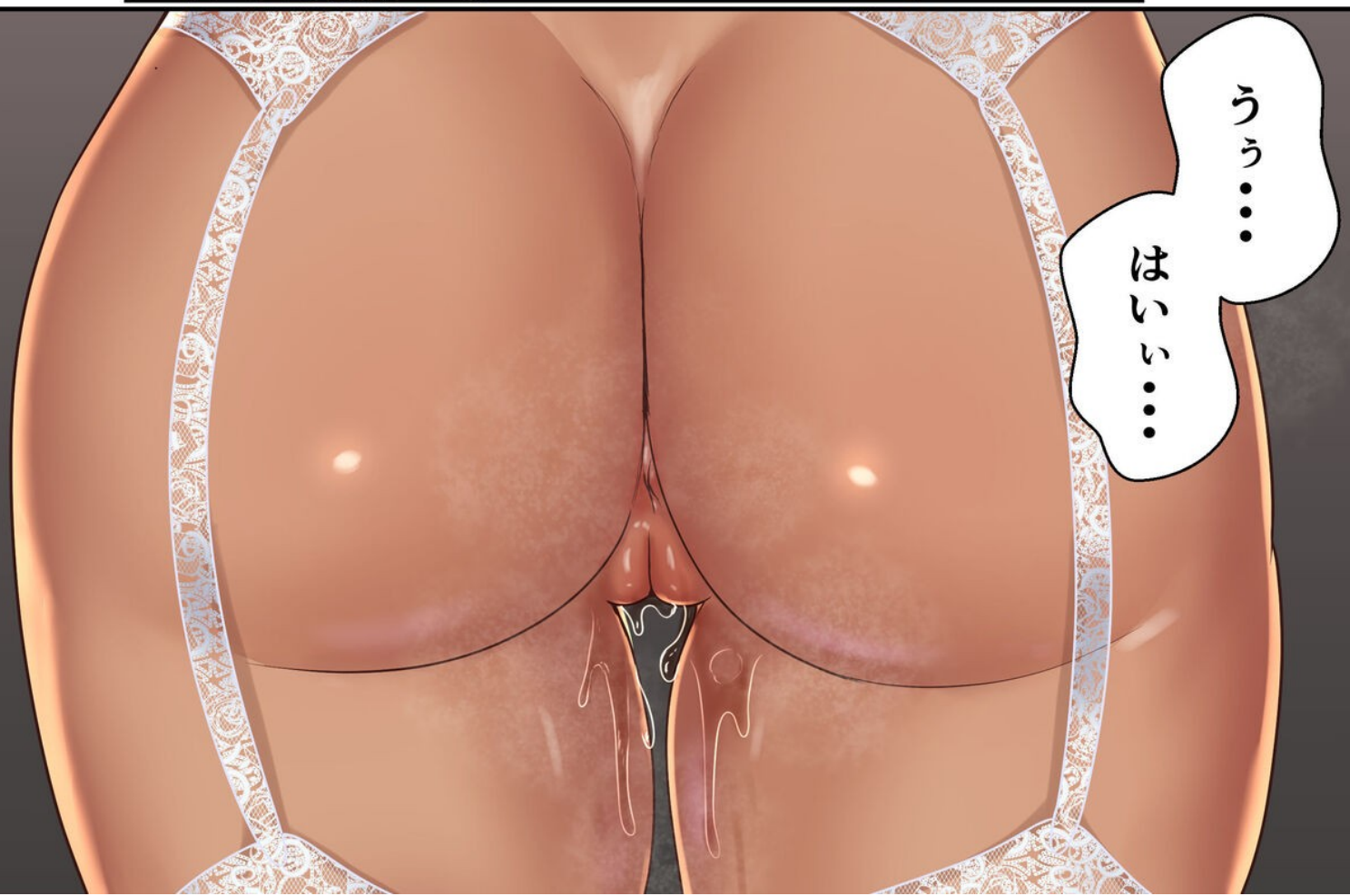
おお、なんだ。
ぐっしょりではないか。

シーファが抱かれる姿を
見て興奮していたのか



それは気づいて
やれなくて
すまなかったな。

服を脱げ。
今度は後ろを向いて
尻を見せるんだ



うう……

はい……



は……
あう……



いや美しい尻だ。
手で開いてよく見せてみる

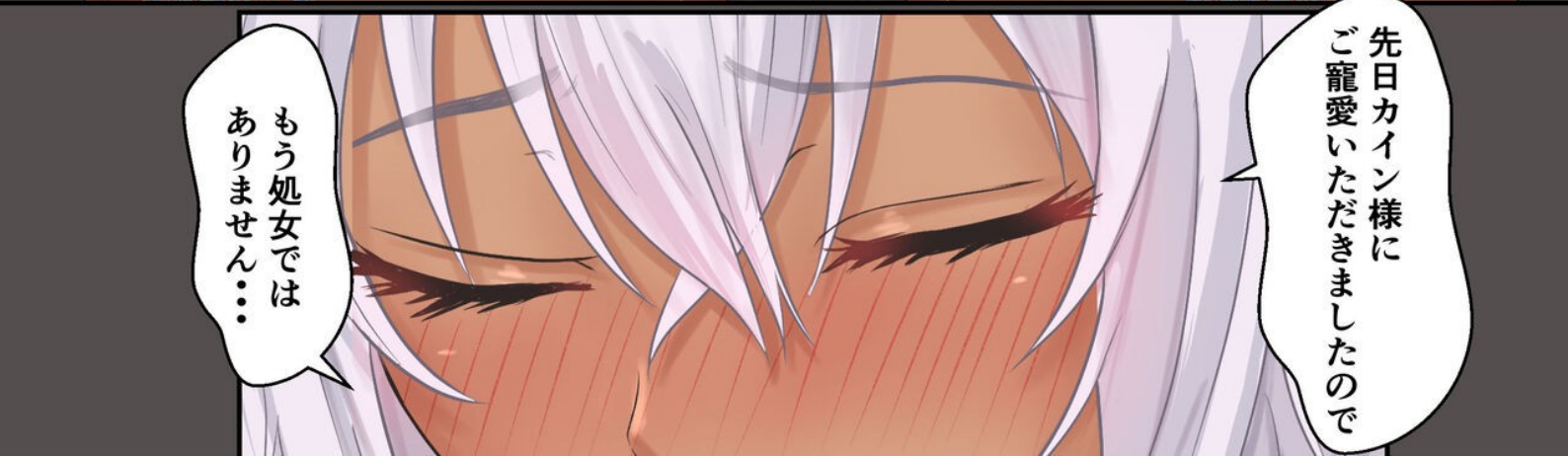
あの……
お目汚しになります

あまり見ないで……
ください……



ほう。褐色の肌とピンクの性器の
コントラストもいいものだな。
素晴らしいぞリーラ

しかし、なんだ……
処女ではないではないか



先日カイン様に
ご寵愛いただきましたので

もう処女では
ありません……



え…。

ふん…そうか。

こんな事態でもメイドは抱いているわけか。呑気なものだな。

そんな…ワタシがこんな恥辱に耐えている間に、リーラを抱いてる…？



あっ…あのっ

ジェイス様…やめ…

恥ずかしっ…

だいぶ感度が良いようだな。どんどん蜜が溢れてくるな。

よし、上に跨るんだ。



よろしく願います…

はい…

シーファ様に出したばかりなのに、
私なんかの身体を見て、
こんなに大きくしていただいてる…？



おっ…



んっ…

いん

あ…れ…？
入らな…



ぐん

ぐん



嘘…挿れた途端にイッてしまった…

カイン様のと全然違う…？

びんっ♡

びんっ♡

は…

は…

あッ

おお、目が光って…
なんと美しい

ようやく見れたな。
エルフは絶頂時にのみ排卵し、
その証として目が緋色に輝く。
そうだろ？

はッ

は…

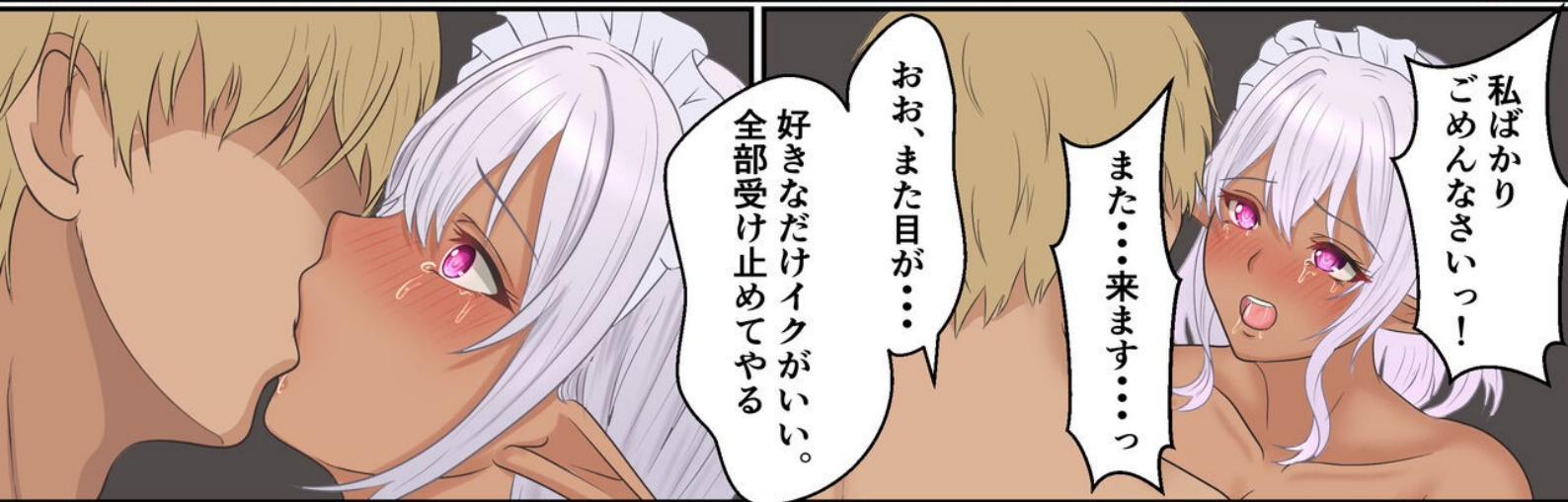
は…

はあ

それにしても挿れただけで
イッてしまうとは。
そんなに気持ちいいか？

はい…とても…
すごく気持ちいいです。

では存分に動け。
もっと気持ちよくしてやる。









ぎぎもち!!

おくっ♡

おあ!!

ささる♡

すぢゅ

すぢゅ

ズン

ズン

ズン

ズン

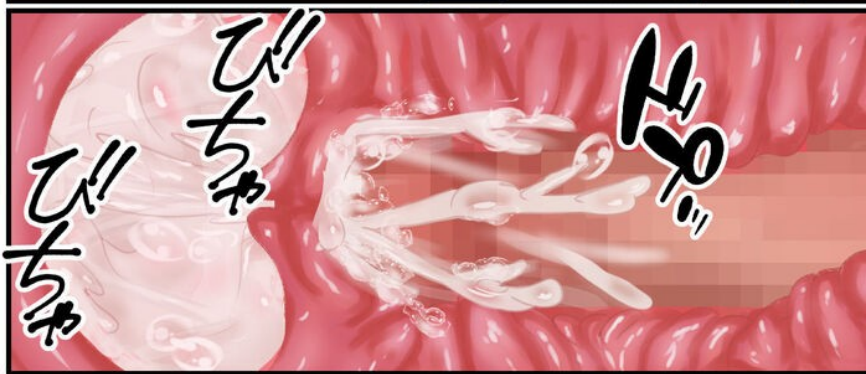
ズン

ズン

ズン

ズン

ズン



それから毎晩、私はシーファ様の代わりに
ジェイス様に抱かれるようになった。

ジェイス様は私を気に入ってくれたようだった。

最初は単に、心を開かないシーファ様への
当てつけだけかもしれないと思ったが、
抱かれているとそれは違うと感じた。
私を一人の女性として抱いてくださっていた。

ジェイス様のご寵愛は、とても心地よく、
ワタシは夜の時間を心待ちにするようにな
っていった。。。。

そんなある日、ジェイス様は、
部屋に籠もりきりのシーファ様を、
気晴らしのために城下町外へ
散歩に連れ立った。

良い天気で
気持ち良い日ですね

ホント！
エルフ族なのに自然に触れずに
王宮にいただけなんて
頭どくなっちゃいそうなもの。

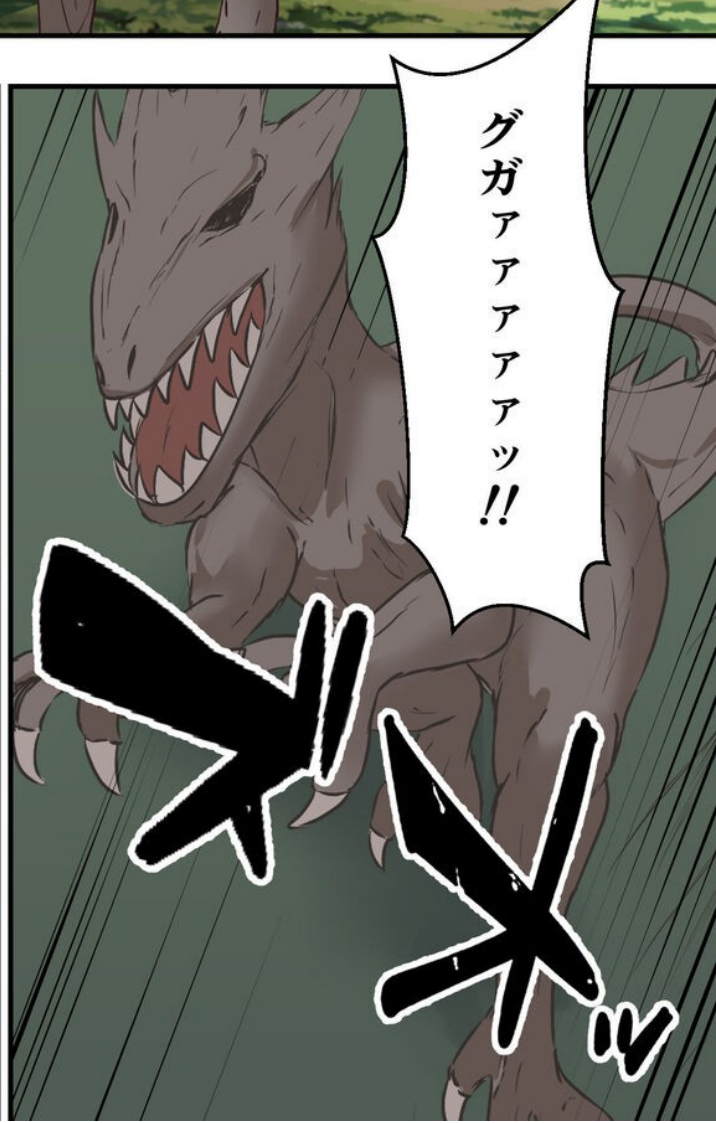
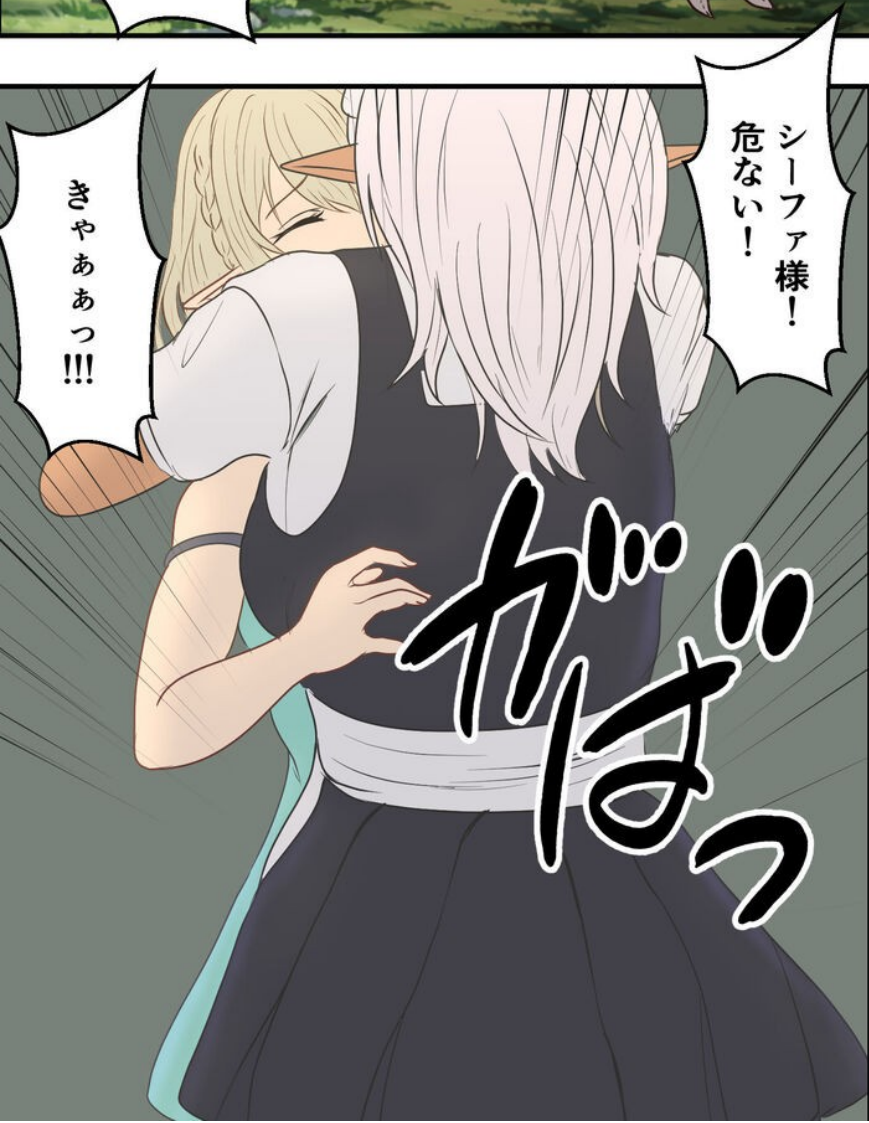
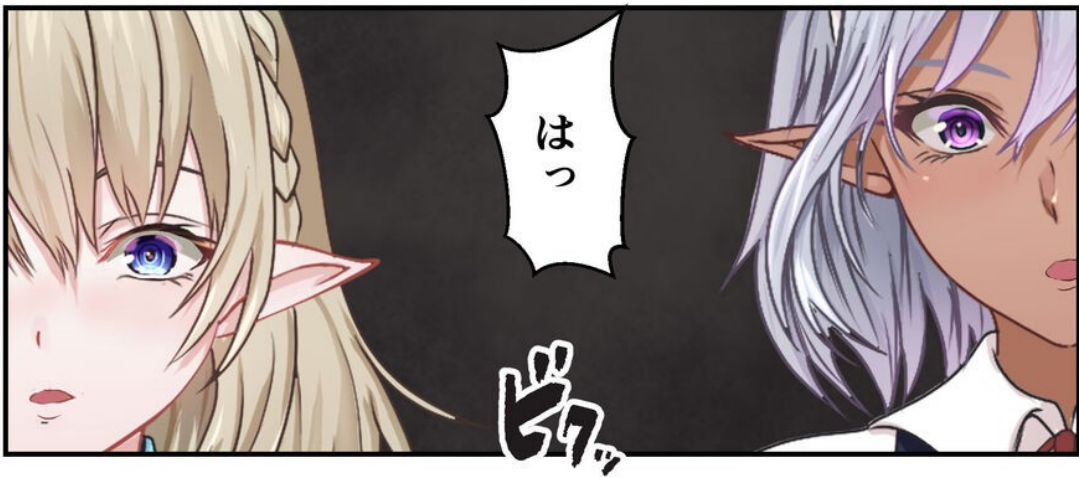
ジェイス様は不思議な方ですね。
横柄なようで、
とても紳士的なところもあります。

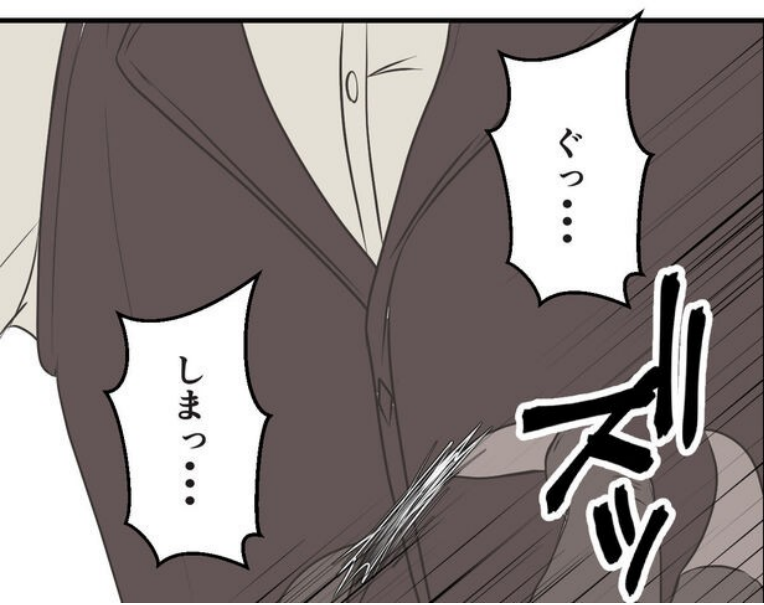
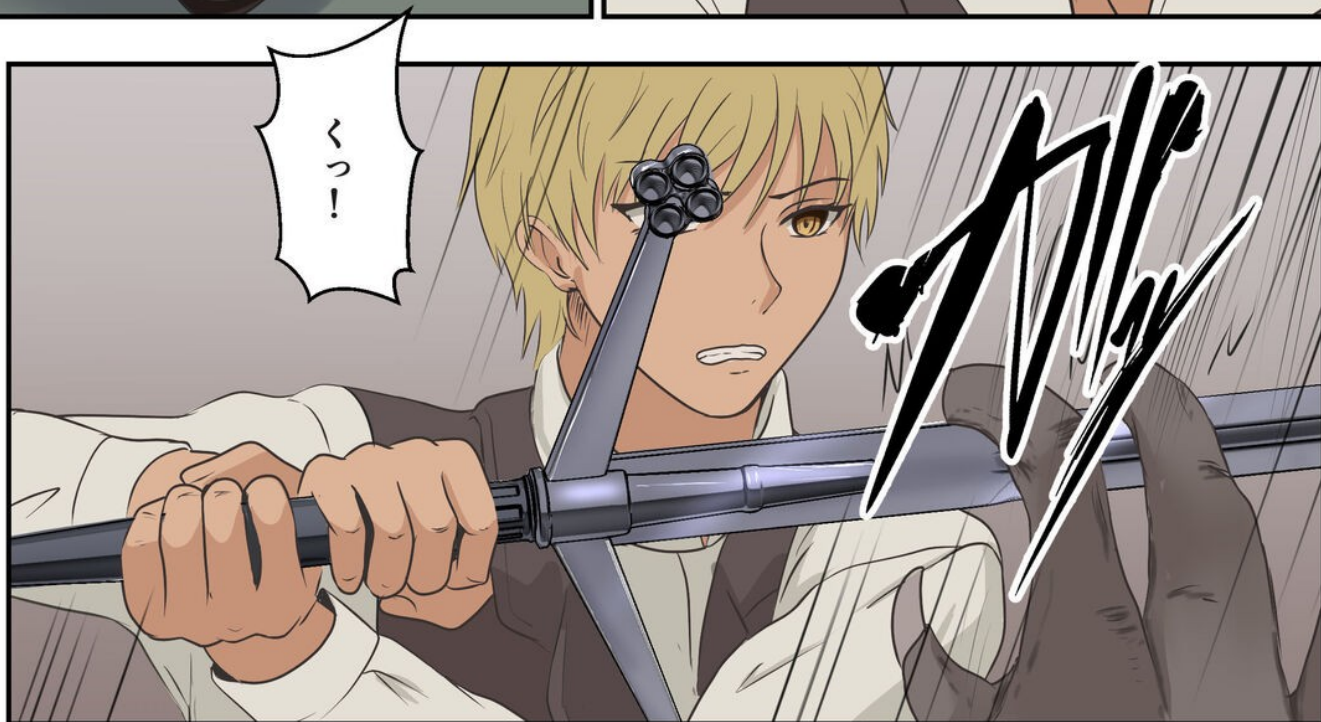
女性の抱き方も…
乱暴なようで私達の本当に
嫌がることはしない。
それになんでしょう。少し…
怯えてるようにも感じますが…

確かにそうね…
それは感じるわ…

足が痛ければすぐに言えよ？

おい。疲れていないか？



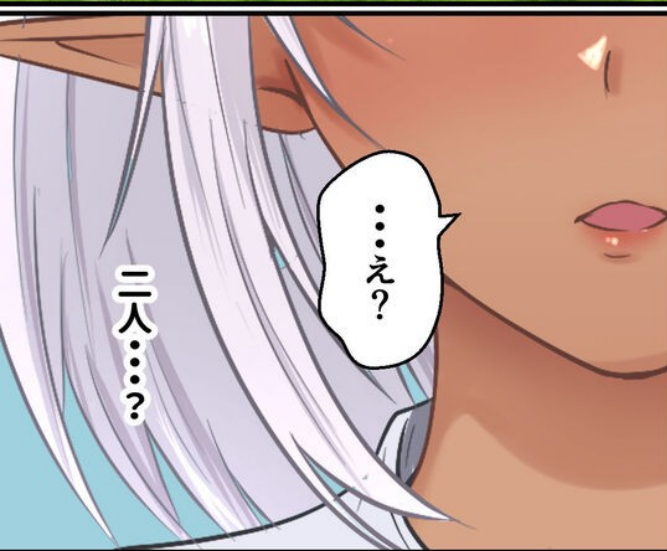






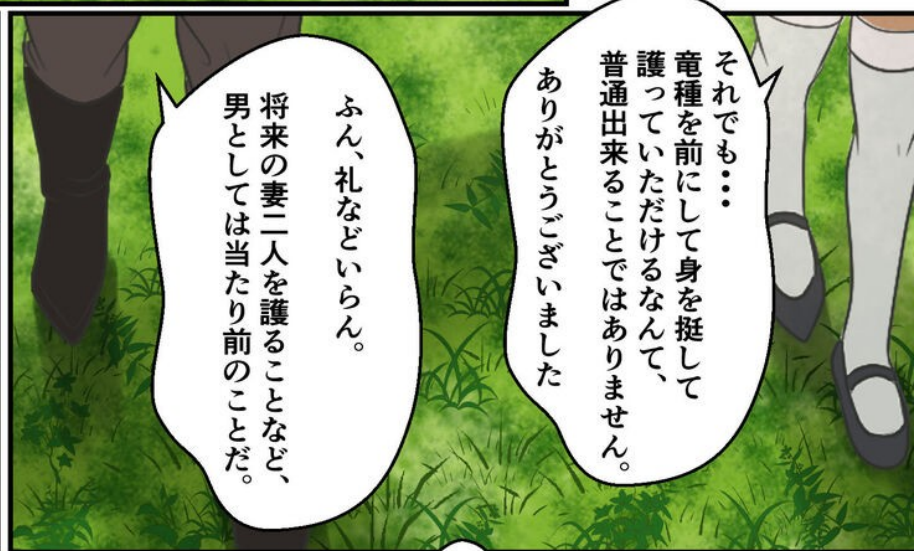
あの…
ジェイス様は
お強いんですね。

ん？
まあ鍛えてるからな。
成竜だったらどうなって
いたか分らんが



…え？

二人…？



それでも…
竜種を前にして身を挺して
護っていただけなんて、
普通出来ることではありません。
ありがとうございました

ふん、礼などいらん。

将来の妻二人を護ることなど、
男としては当たり前のことだ。



よう、気づいたか

はっ…

あれっ…？

あっ…
私ったら気を失って…

すみません、今降りますので！

おい暴れるな。足を挫いてるかもしれん。
このまま寝室まで運ぶぞ

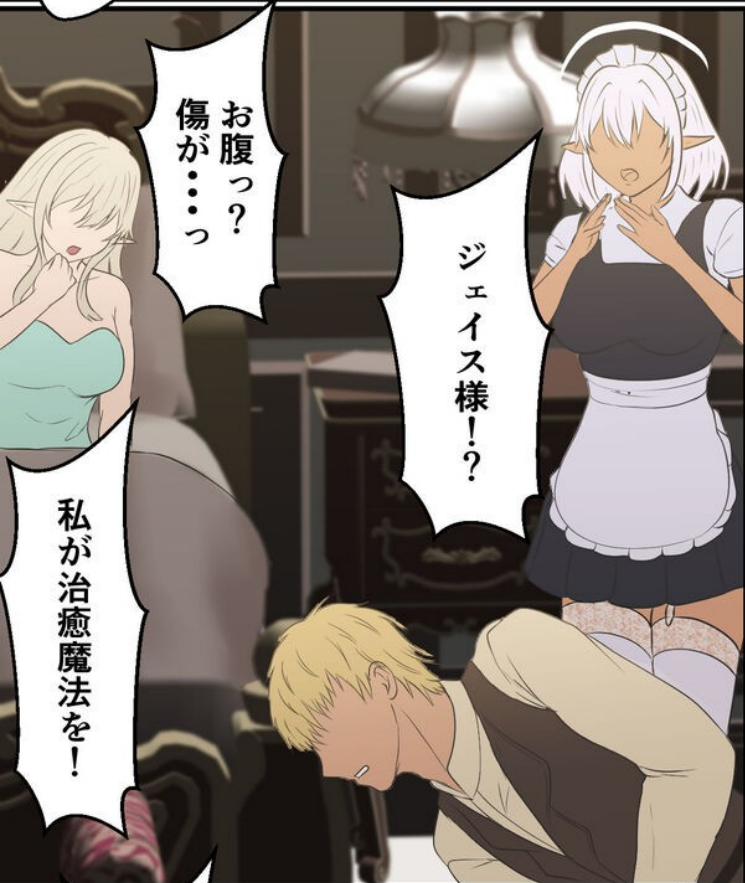
でもっ、重いですからっ



よし、まあ外傷はない。

ちようど日も暮れた。
明日まで安静にしている

大げさですよ……
気を失っただけなのに……



お腹っ？
傷が……っ

ジェイス様！？

私が治癒魔法を！



あの……
ジェイス様。リーラも……

助けてくれて
ありがとうございます



くっ……

この傷、治癒魔法が
ほとんど効かない！？

私も手伝います！

とにかく魔法をかけ続けて！



む…



良かった…

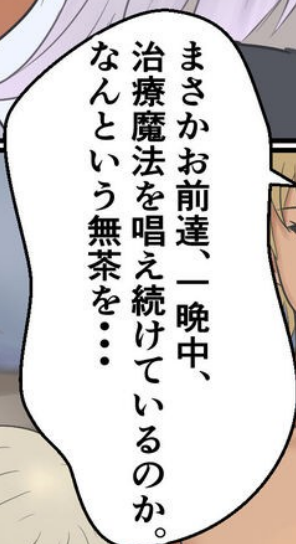


あっ意識が！

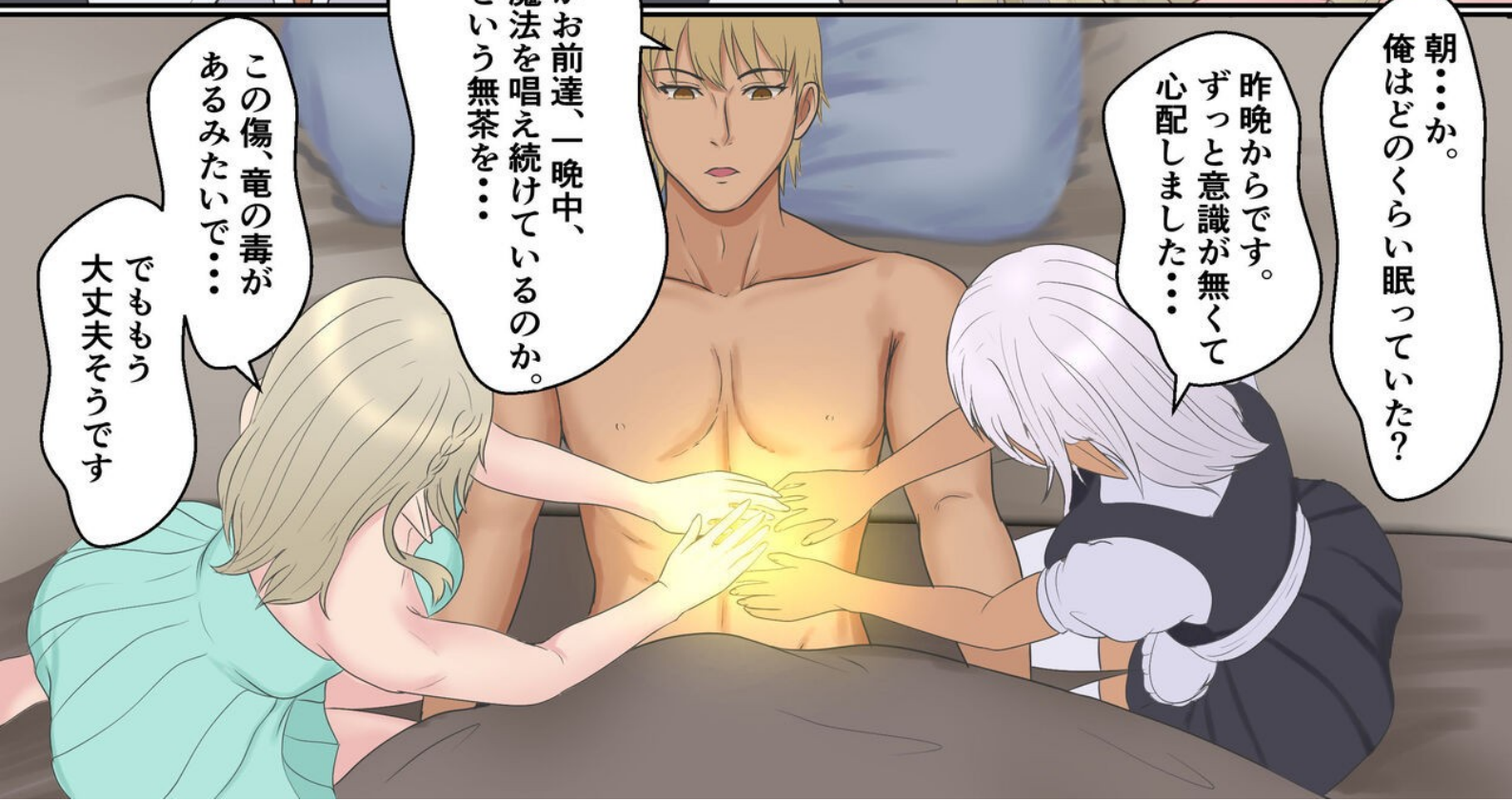


はあ

はあ



まさかお前達、一晩中、
治療魔法を唱え続けているのか。
なんという無茶を…

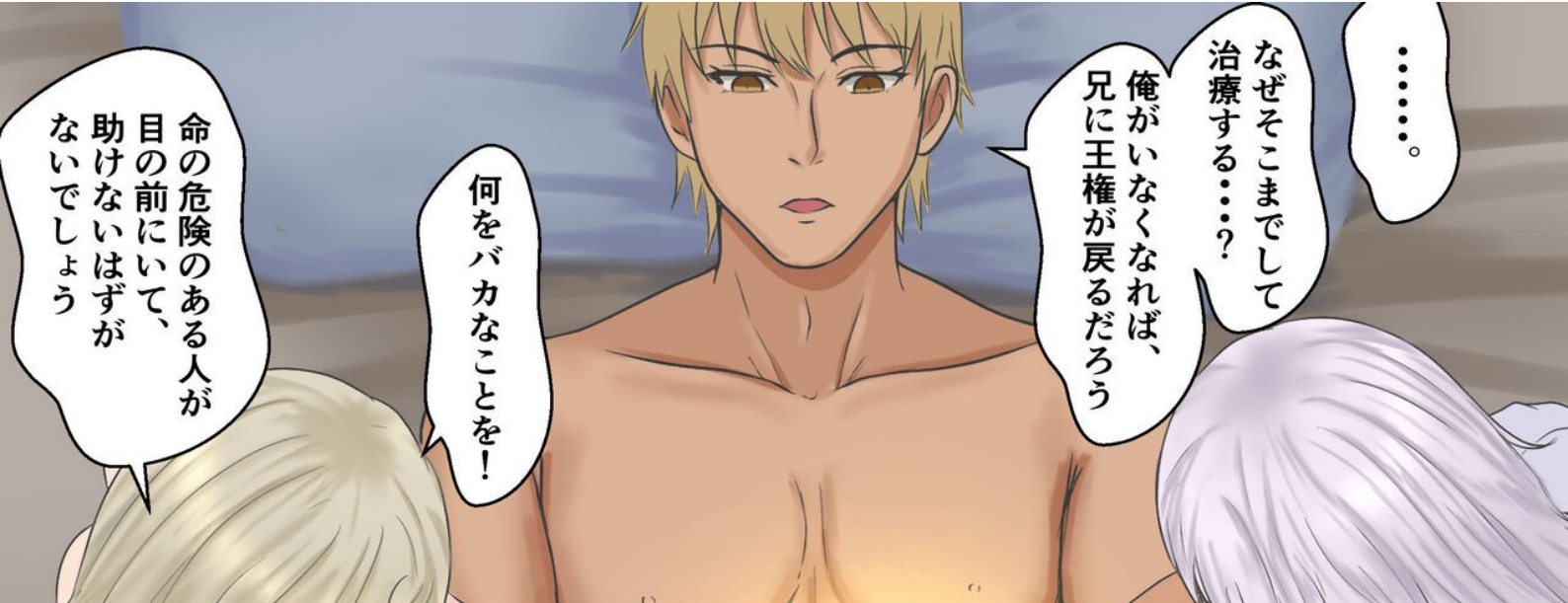


朝…か。
俺はどのくらい眠っていた？

昨晚からです。
ずっと意識が無くて
心配しました…

この傷、竜の毒が
あるみたいで…

でももう
大丈夫そうです



.....

なぜそこまでして
治療する……？

俺がいなくなれば、
兄に王権が戻るだろう

何をバカなことを！

命の危険のある人が
目の前にいて、
助けられないはずが
ないでしょう



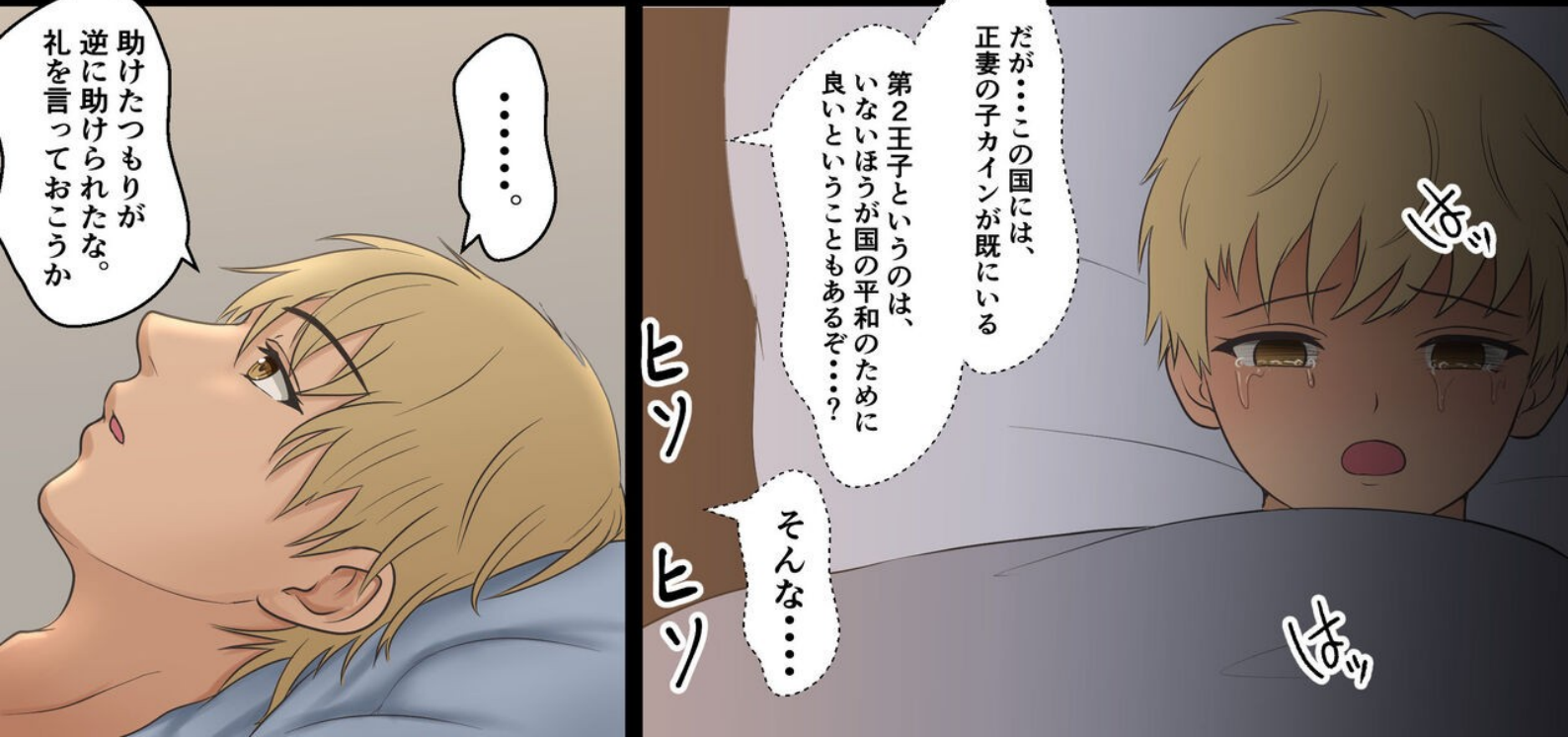
あなた！
ジェイスがモンスターに
襲われて怪我を
してしまったの！

はやく医療班を
呼ばないと！

ん？そう……か。

はっ

はっ



.....

助けたつもりが
逆に助けられたな。
礼を言っておこうか

だが……この国には、
正妻の子カインが既にいる

第2王子というのは、
いないほうが国の平和のために
良いということもあるぞ……？

そんな……

ヒッ
ヒッ

はっ

はっ

半日後……

入るぞ……

がちゃ

あっあれっ、
私、ずっと寝て……？

むく……

んん……もう夜？
すごいいい
寝ました……

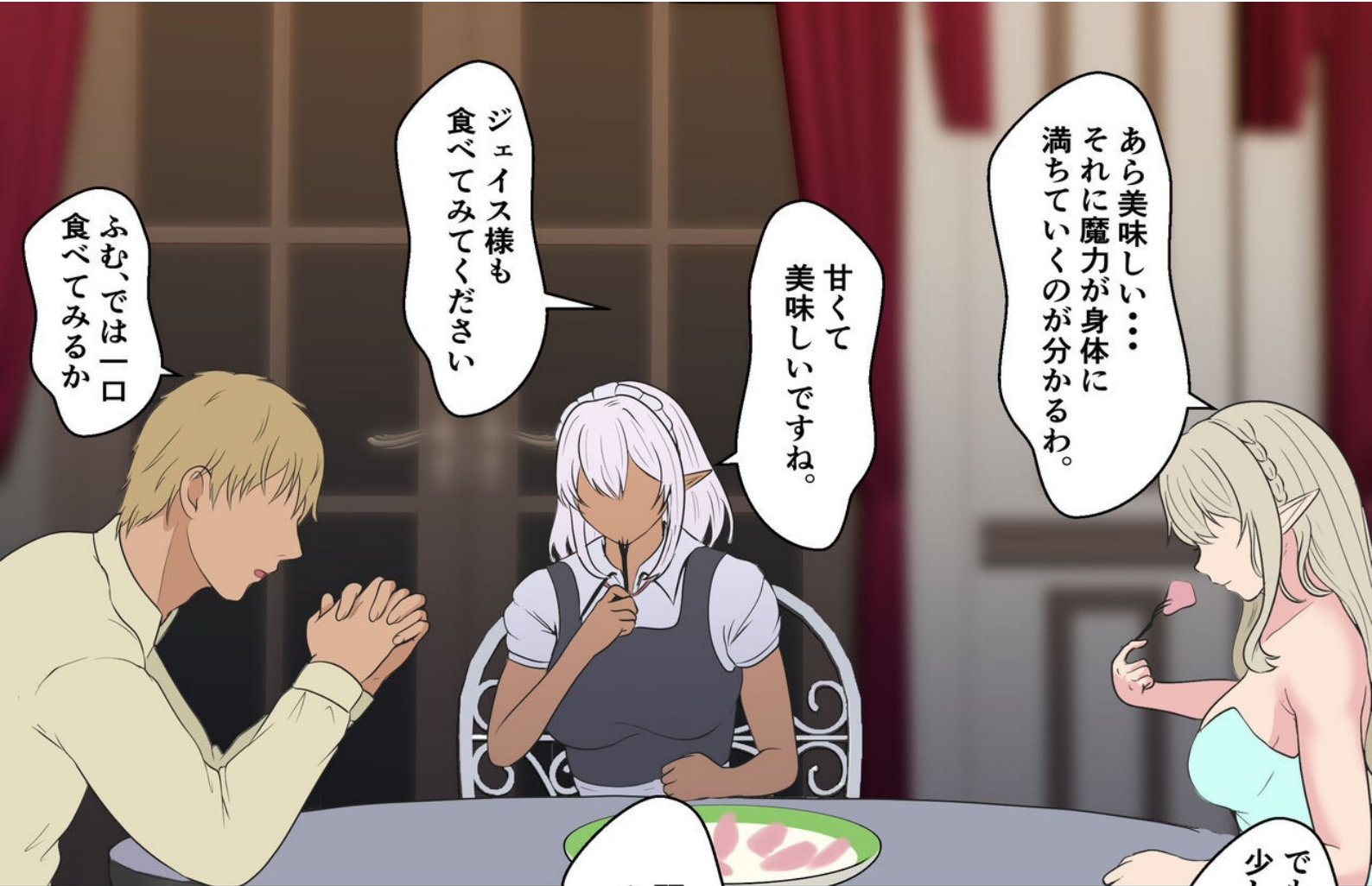
ジェイス様……
お身体はもう
いいのですか？

ああ、
お前たちのおかげでな

それよりも
お前達の方こそだ。
魔力を使い果たして
しまったのだろう。

これを探ってきた。
魔力を満たすエーテルスイーツ
というレアな果物だそうだ。

以前に散策中に見つけてな。
俺だけが知っている
採れる場所があるんだ。



ジェイス様も
食べてみてください

甘くて
美味しいですね。

あら美味しい…
それに魔力が身体に
満ちていくのが分かるわ。

ふむ、では一口
食べてみるか



頭がふわふわして
心地いい感じ…

ふむ…俺もだ…。

初めて食べたが…
これは…



でもなんだか…
少しぼーっとしてきたわ。

そういえば、
聞いたことがあります。

ユグランドに生る
魔力を満たす
フルーツを食べると、
強いお酒に酔ったような
高揚感が数時間続くとか。

ほお……

高揚感で
本音しか言えなくなるので
抽出液を濃縮すれば
自白剤にもなるみたいです。

なるほどな……。
まあ今日はもう夜だ。
特に問題あるまい。

俺もそろそろ
寝室に戻るとしよう

あつ、では……
今夜のお務めを……

服を脱いでまいますので
少しお待ちを……

いや……
今夜は大丈夫だ

というか考えが変わった。
お前たちを無理やり
抱くのはもう止めた

え……？
そんな……

でも……
私はむしろ……

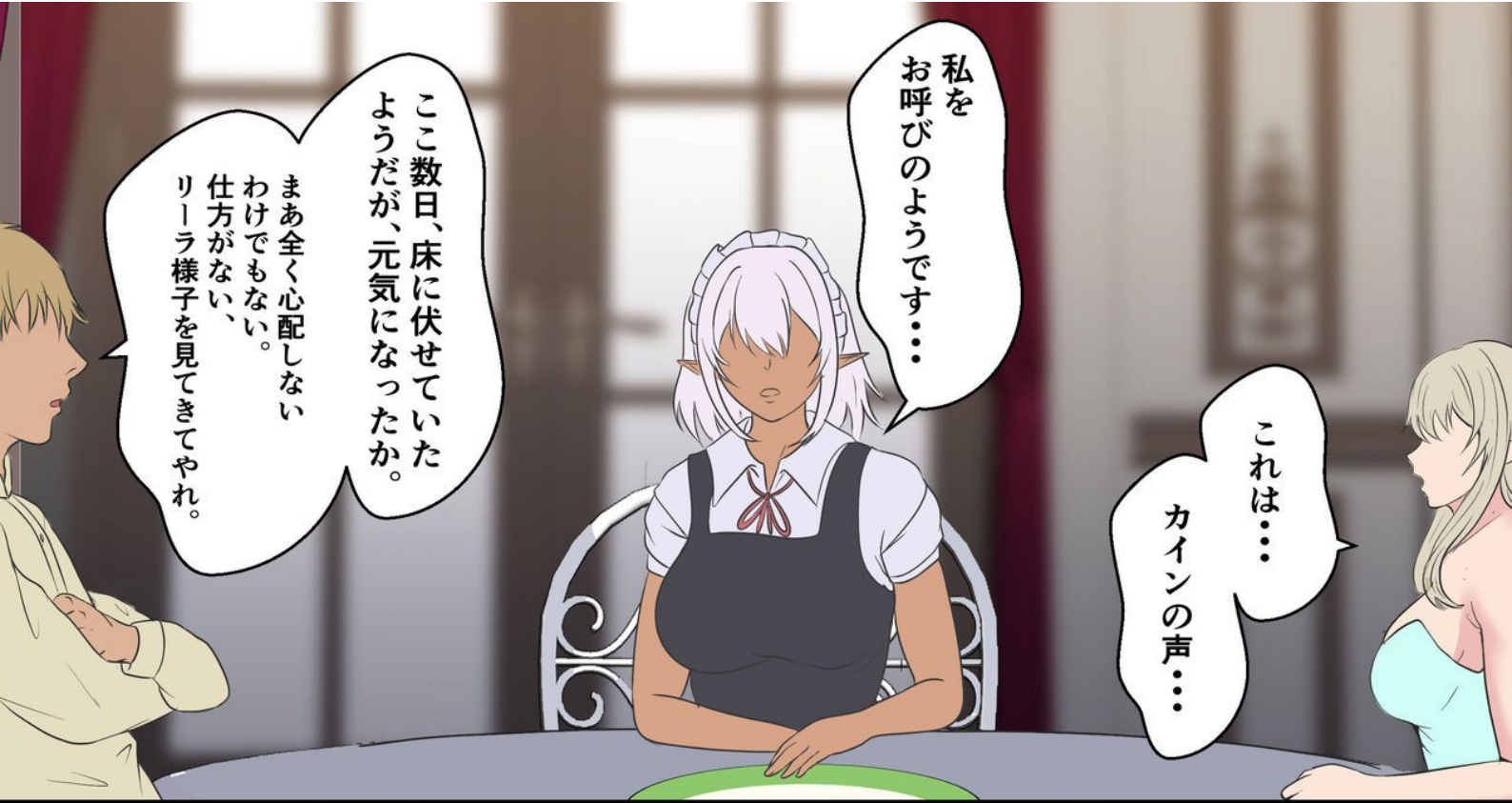
同時刻ーカイン寝室ー

この時間…
きつとシーファが、
またあいつに抱かれている…

今日はどんな風に抱かれてる…？

怖い…見たくない





私を
お呼びのようです…

ここ数日、床に伏せていた
ようだが、元気になったか。

まあ全く心配しない
わけでもない。
仕方がない、
リーラ様子を見てきてやれ。

これは…

カインの声…



ふん、しかし兄貴は
よほどリーラの身体が
気に入ったようだな。

あの呼び方。必死じゃないか



だが、兄貴に抱かれるのは許さんぞ。
身体の奉仕もだ。

お前は俺の
大切な女だ。

無理やり抱かない
とは言ったが、
そのうち抱かれない
と思わせてみせるさ。



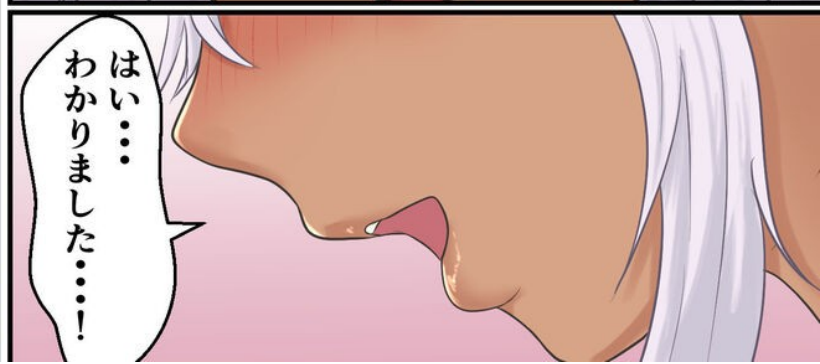
ええ、ホント…

そうみたいですわね



あ…

本音しか…
言えない…？



はい…
わかりました…!!



その魔道具がどのようなものか
知ってしまった以上、
シーファ様を裏切るような
ことはできません



申し訳ございません…
それはお断り
させていただきます…

なんだと!?!
なぜだ!



裏切り?
また何を訳の
わからないことを。

妻の様子を把握するのは
当然のことだろう。

さあ、さっさと
魔力を注ぐんだ!



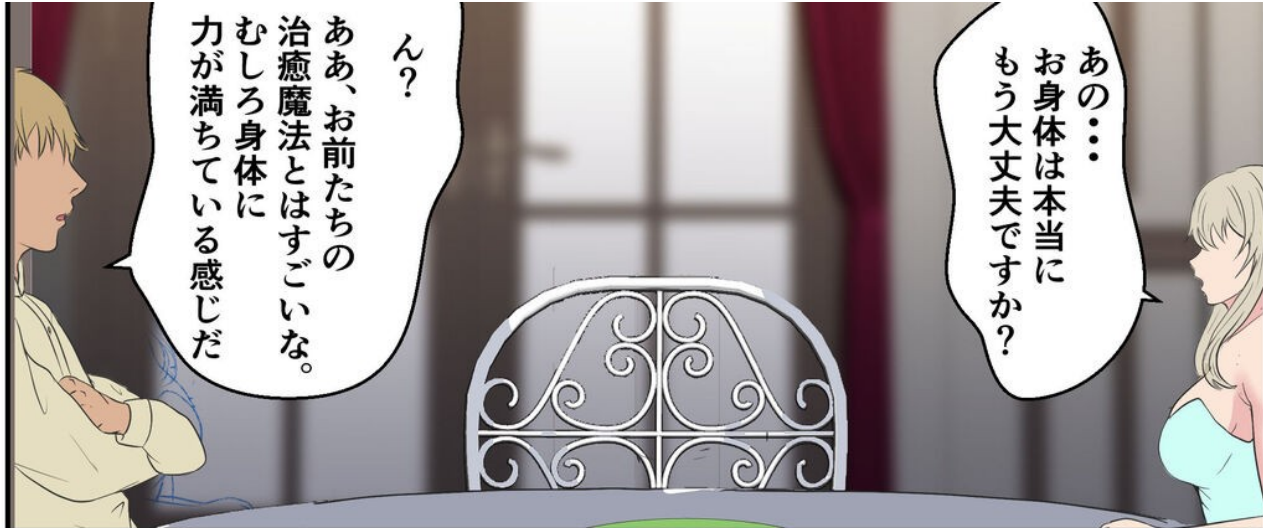
えっ、どうして

エーテルスイーツを食べたから?
魔力が身体から溢れて…



おお?
なんだ勝手に魔力が
充填されたではないか。

ポウ...



あの…
お身体は本当に
もう大丈夫ですか？

ん？

ああ、お前たちの
治癒魔法とはすごいな。
むしろ身体に
力が満ちている感じだ



私だって…

そう…ですか

良かった



今夜はジェイス様に
抱いていただきたいな…

なんて…



自分に正直になっても…

あの…

もしそうでしたら…

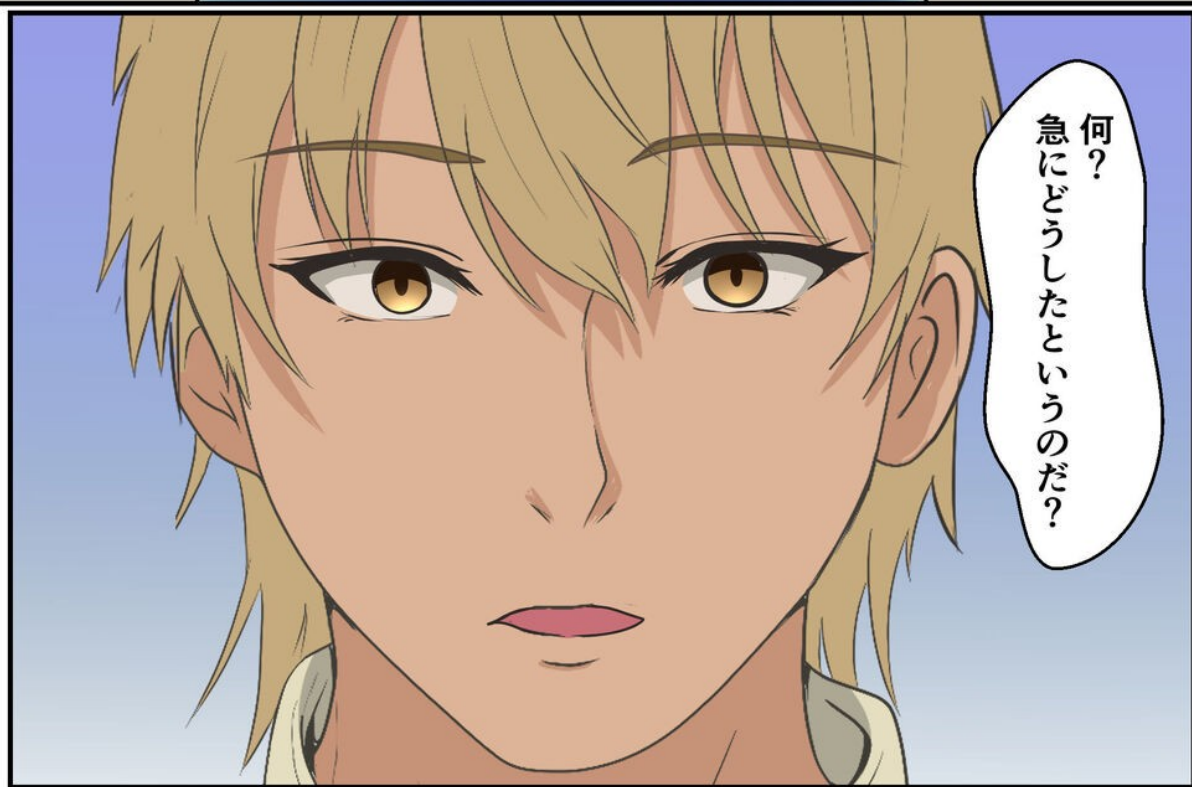
良かったら
なのですが…



何…っ!?

シーファ…?
どうして

無理やり抱かれてるん
じゃなかったのか!?



何?
急にどうしたというのだ?



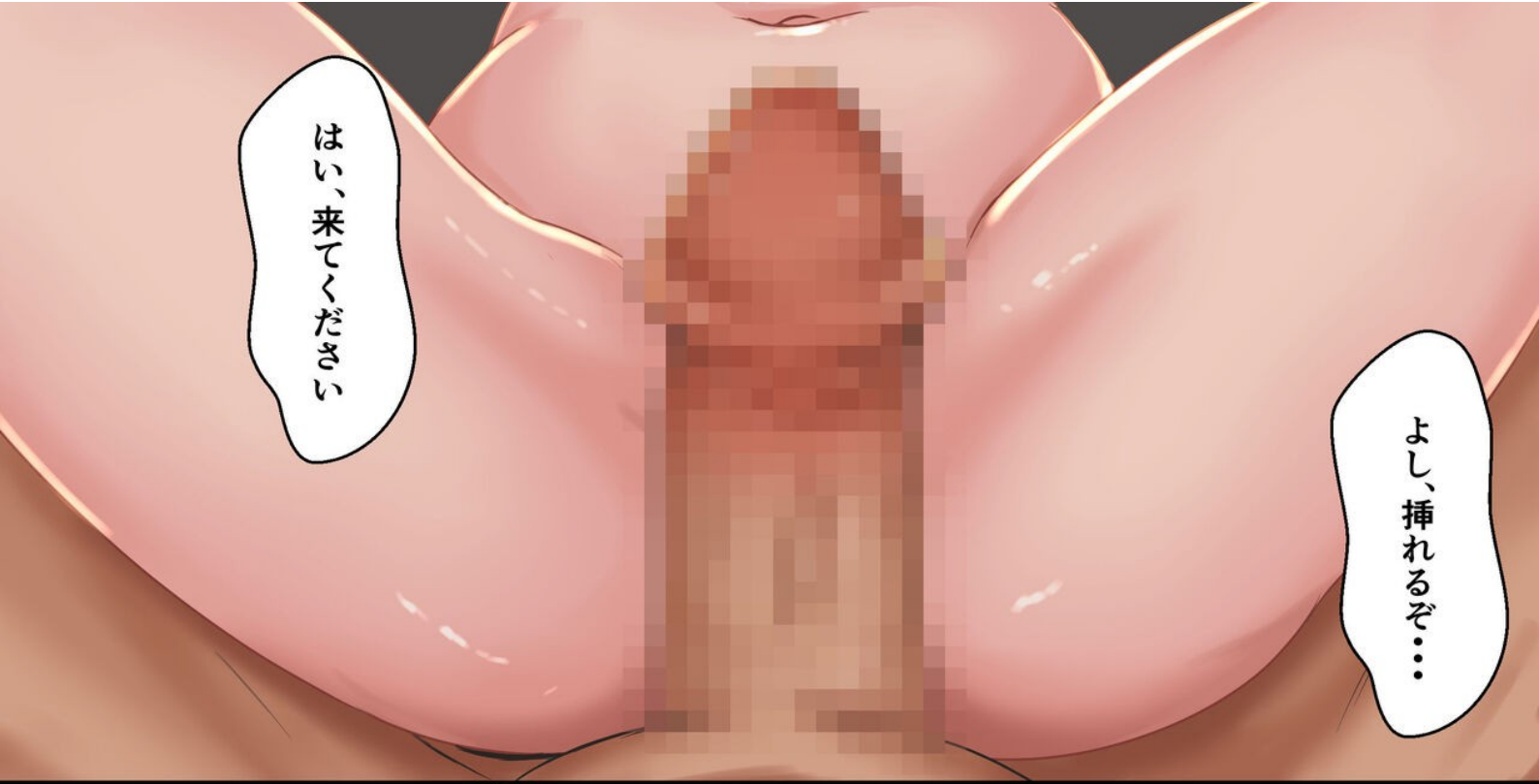
よしわかった。
今夜はたっぷり
可愛がってやる

ふむ。
嫌がってると思っていたが、
女心とは分らんものだな。



だって…
最近リーラばかり抱いて…
ずるいです

見てるだけで、
ずっと我慢していました



はい、来てください

よし、挿れるぞ...



ふー

ふー

ふー



ぐら

ぐら



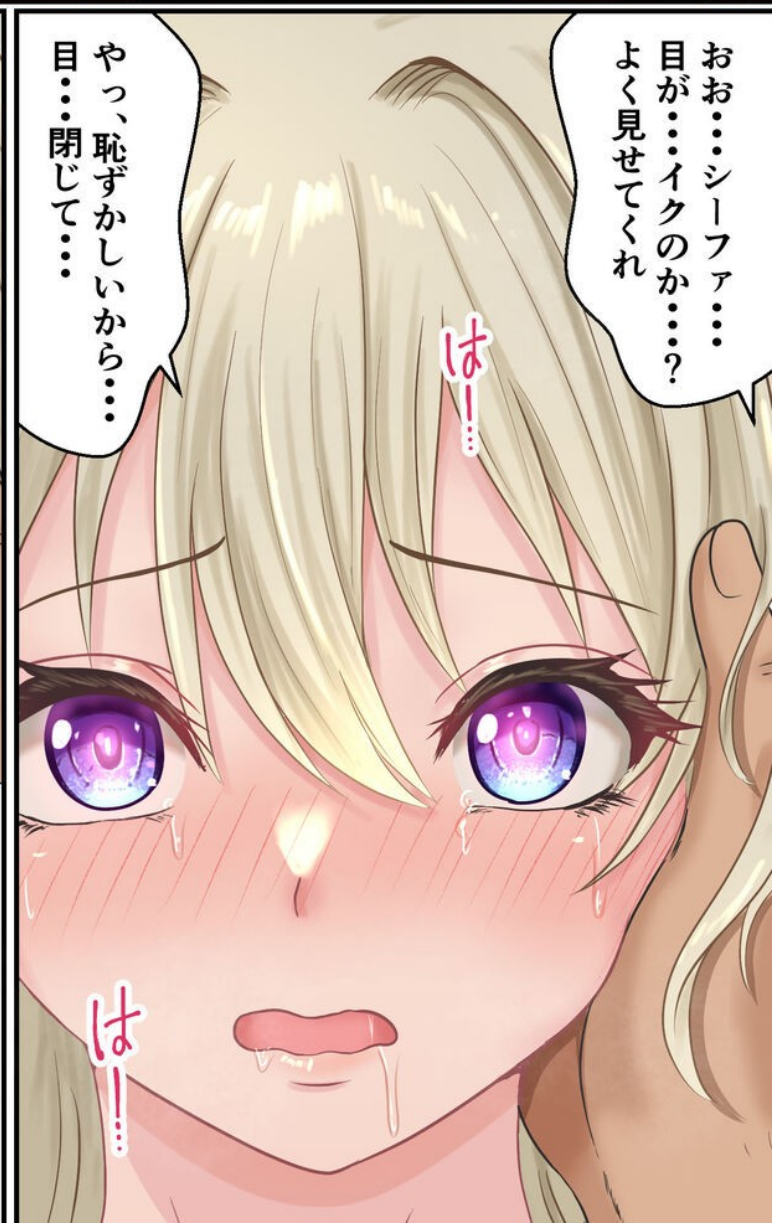
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ



ずんずんずんずん





あーっ
あーっ
あーっ
あーっ
あーっ

ビクッ

ズンッ♡

ズンッ♡

びしょ

びしょ



おお・・・美しい！
やっと俺を
受け入れる気になったか



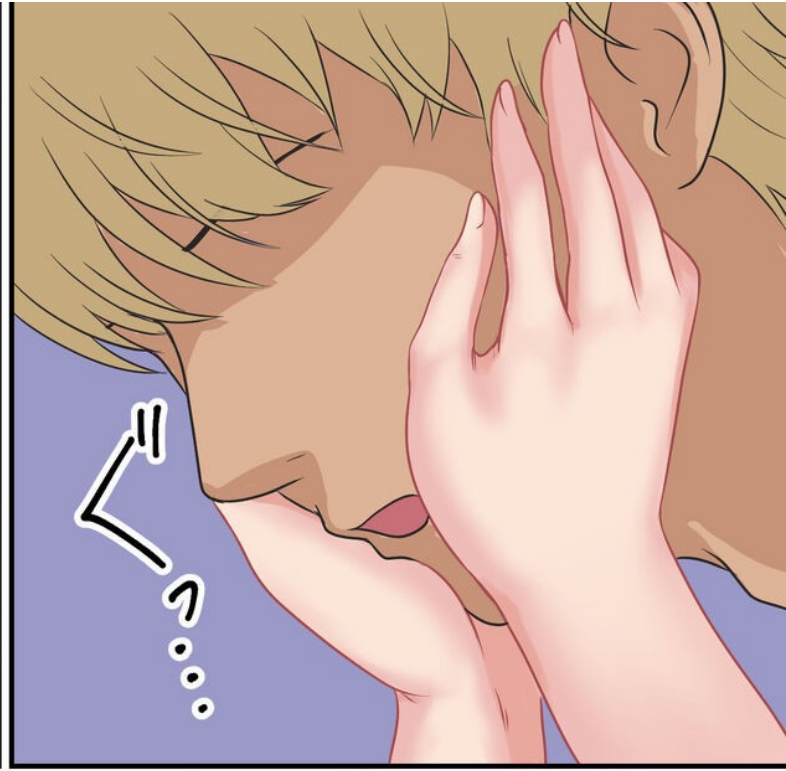
くっ・・・
なんて締めまりだ・・・

出すぞっ・・・



イクの・・・
止まらなっ・・・

う・・・はっ・・・





おい。シーファの
目が光っている。
これはなんだ？



これは…
本当にシーファなのか…？

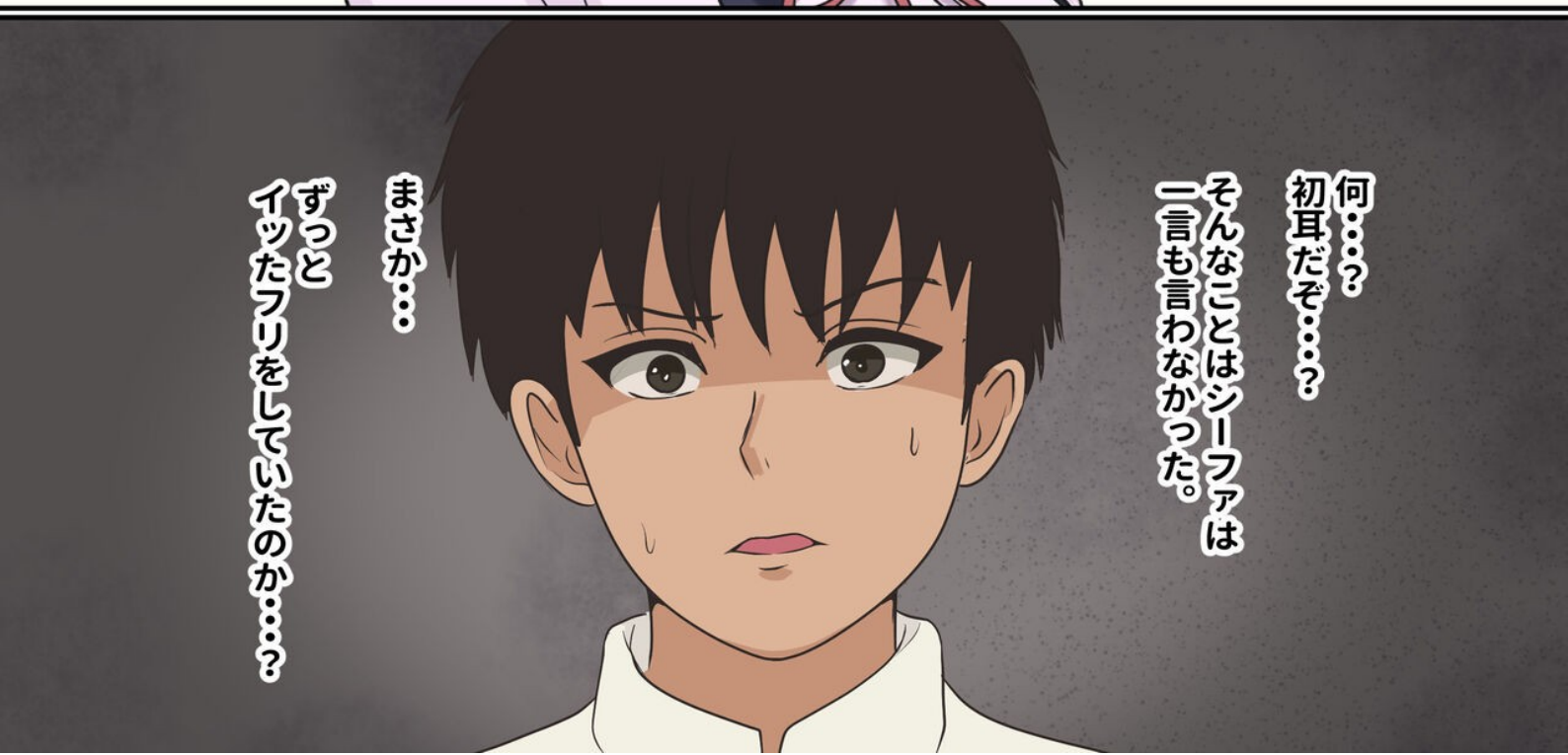
それになんだ？
シーファの目が…？



……？

あの…御存知の通り、
私達エルフは男女の交わりで
絶頂することで排卵いたします。

その際に目が光りますが…



何…？
初耳だぞ…？

そんなことはシーファは
一言も言わなかった。

まさか…

ずっと
イッたフリをしていたのか…？



ずっと我慢してたのお！



全然気持ちよくして
もらえなかったの！

ズッ

ズッズッ

ズッ



はは。
エーテルフルーツのせいかな。
本音が全部口に出てるぞ

きっと私……
あなたに会うために
この国に嫁ぎにきたのっ

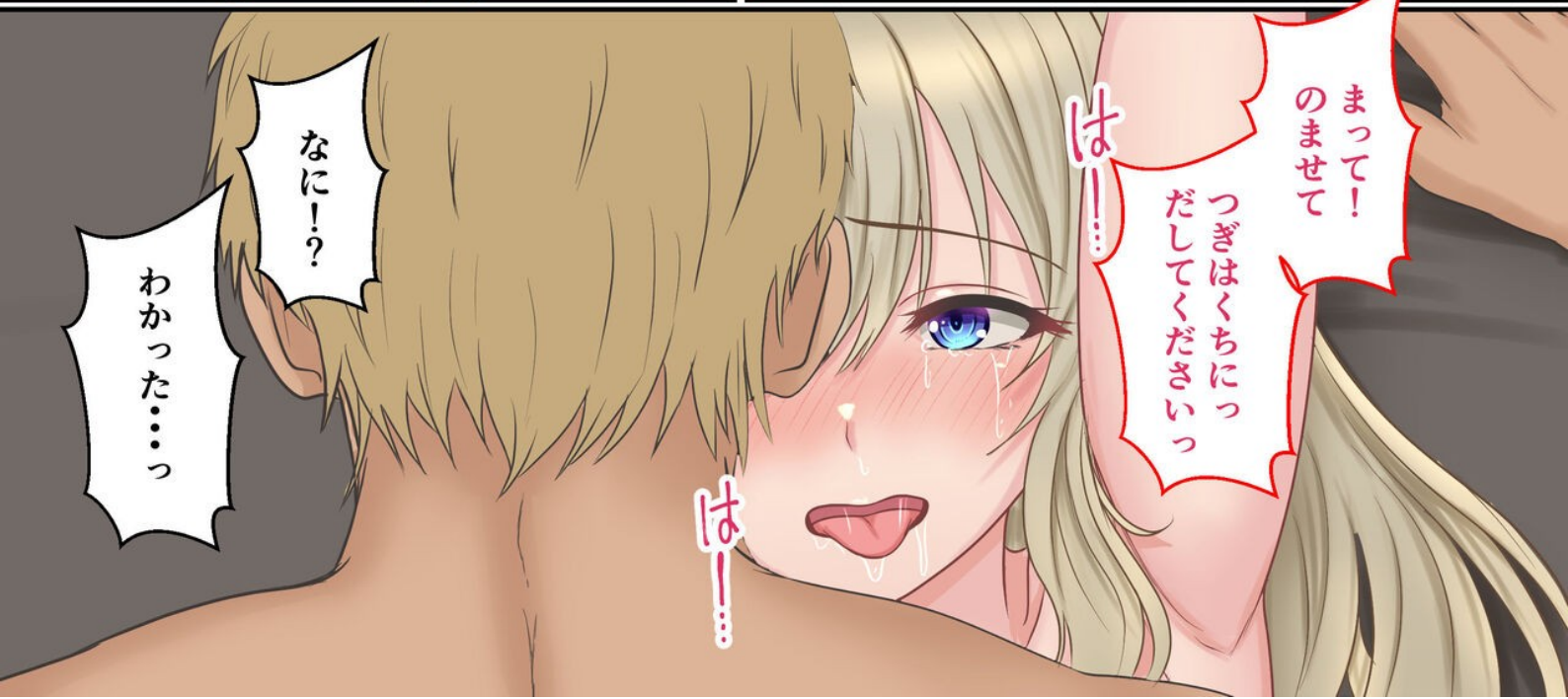
ぬぽっ

ぬぽっ
ハッハッ

私の身体っ
ジェイス様を求めてるっ

ちゅっ

ちゅっ







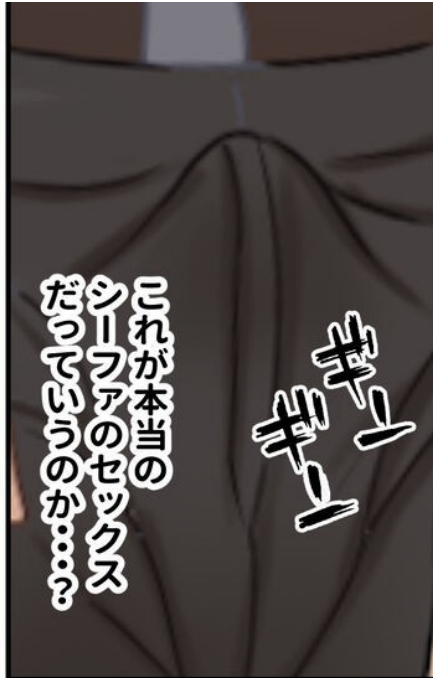






お、俺だって！

ぎりっ



これが本当の
シーファのセックス
だっていうのか…？

ギュー
ギュー



すすすぎる…なんて淫乱な…

おっ
おっ
おっ



申し訳ございませんが、
それもお断りいたします。

身体の奉仕はするなど
ジェイス様に言われております。

それに個人的にも…
抱かれたくはありません



俺だって
エルフ女の一人や二人！
簡単にイカせられるぞ！

リーラ！服を脱げ！
俺が抱いてやる！



私がお慕いしているのは
シーファ様とジェイス様
でございます。

では他に用がないようですので、
失礼させていただきます。



ふざけるな！
俺は王だぞ！

俺のことが好きなんだろう！
イカせて孕ませてやるから
さっさと尻を出せ！



おい...

なんだってんだよ...?

くそっ、誰か！
誰かいなか！

若い女を一人、
部屋によこすんだ！

ネトラレ国王

著者 サンバルキン
発行 サンバルキン
Twitter @sanbalkin1